

6 平成八年 年頭の所感 ●文部大臣 島村宜伸

特集 魅力ある理工系教育の推進

創造的人材の育成のために

巻頭言 ● 10 理工系人材育成における大学の役割 ● 末松安晴

座談会 ● 12 魅力ある理工系教育推進のために

● (出席者) 松本和子 / 四方義啓 / 只野文哉 / 池上徹彦 ● (司会) 笠井高芳

論文 ● 24 産業界が期待する人材像について ● 三田勝茂

● 27 日本的教育 ● 大橋秀雄

エッセイ ● 30 一億総理工系時代 ● 本川達雄

事例紹介 ① ● 32 大道芸ロボットについて ● 東京工業大学工学部機械宇宙学科

事例紹介 ② ● 35 未来博士と「一日大学院」 ● 北陸先端科学技術大学院大学

事例紹介 ③ ● 38 夢発見・夢実現の創造演習

自発形創造教育システムにおける取組 ● 徳山工業高等専門学校

事例紹介 ④ ● 40 創造性教育を支援する夢考房 ● 金沢工業大学

解説 ● 43 理工系教育の現状と施策の推進について ● 高等教育局専門教育課

カラー

1 いまどき個性ある日の学校訪問記
● 犬山市立栗田小学校(愛知県)

4 天然記念物歳時記

● アホウドリ、鳥島(東京都)

表2 名作シリーズ ● 三井寺縁起

表3 文化財紹介 ● 史跡水子貝塚

50 阪神・淡路大震災から一年を振り返って

53 教育・文化と地域づくり ● 佐賀県有田町

56 焦点 ― 文教施策

61 人この道 ● 青木 玉

62 中教審ユース

67 私の本棚から ● 菅原寛孝

68 霞が関トピックス

70 都道府県発 ― 教育・学術文化ユース
● 群馬県 ● 千葉県 ● 石川県 ● 広島県

72 96 アトラクター ― 我が国競技スポーツの最前線

● 近代五種

74 科学は、まー理工系のいざい

● 京都大学ウイルス研究所

77 鑑賞席 ● 大英博物館所蔵

イタリア素描展

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

● 国立リハビリセンター記念青少年総合センター

80 海外教育ユース

82 文学のふもと ● 赤いらつとくと人魚

84 編集後記

小川未明

赤いろうそくと人魚

人魚は、南の方の海にばかりすんでいるわけではありません。北の海にもすんでいたであります。

北方の海の色は、青うごぎいきました。あるとき、岩の上に、女の人魚があがってあたりのけしきをながめながら休んでいました。

雲間からもれた月の光がさびしく、波の上を照らしていました。どちらを見てもかぎりない、ものすごい波が、うねうねと動いているのであります。

なんという、さびしいけしきだろうと、人魚は思いました。自分たちは、人間とあまりすがたはかわっていない。さかなや、また底深い海の中にすんでいる、気の荒い、いろいろなものなどにくらべたら、どれほど人間のほうに、心もすがたもにているかれない。それなのに、……（中略）……

長い年月の間、話をする相手もなく、いつも明るい海の面をあこがれて、暮らしてきたことを思いますと、人魚はたまらなかつたのであります。そして、月の明るく照らす晩に、海の面に浮かんで、岩の上に休んで、いろいろな空想にふけるのが常でありました。



イラスト・内部敬生



未明直筆の「雲のごとく」石碑

越後高田（現在の新潟県上越市）の冬は厳しい。平野は一面の吹雪の雪原となり、日本海は鉛色の空の下で荒れ狂う。身も心も雪に閉ざされてしまふ。

大正一〇年（一九二一）に発表された「赤いろうそくと人魚」には、明治一五年（一八八二）の出生から少年時代まで過ごした小川未明のふるさとの自然や風土、そして、そこでの心象風景が描かれている。北方の海の色、月の光、波の動き、南の海へのあこがれ……。どれをとっても、ふるさとの自然と風土に結びつくものばかりである。

なかでも、人魚の母と娘には、未明が旧制中学校時代冬の間下宿した家の母親と少女を重ねているという。未明は、足が悪くて歩けない美しい母親と芸者に出される少女を気の毒に思い、母親の歩けない足を魚の尾に変えて人魚の母親にし、芸者に出される少女を南の国に売られていく人魚の娘にしたのであろう。

当初小説家として発表した未明。しかし、「赤いろうそくと人魚」発表の五年後、大正一五年に「今後童話作家に」を発表。それから亡くなるまでの三五年間、児童文学一筋に生き抜き、「日本のアンデルセン」とよばれるようになったのである。

未明に関する碑には、生誕の地碑や石碑などがある。なかでも、父澄晴が建設した春日山神社境内にある「雲の如く」の石碑は未明の心境を描いたものとして多くの参拝者や観光客の心を和ませてくれる。

（新潟県上越市教育委員会学校教育課指導主事 歌川 孝）

CONTENTS
特集 **中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申**

巻頭言 8 地方教育行政の改善に向けて——有馬朗人

答申について 10 「今後の地方教育行政の在り方について」の答申に当たって——根本二郎

11 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申について——大臣官房政策課

座談会 16 今後の地方教育行政の在り方——(出席者)河野重男／安齋省一／松井石根／船津春美／司き高 為重

論文 28 地方分権時代の学校と教育委員会——石原多賀子

エッセイ 32 中教審の審議に参加して——金剛育子

事例紹介① 34 住民主体ですすめる教育改革——川崎市教育委員会

事例紹介② 37 通学区の弾力化——東京都葛飾区教育委員会

事例紹介③ 40 生涯学習による町づくり——秋田県山本郡夢丘町教育委員会

解説 42 地方教育行政制度の概要——大臣官房政策課

47 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」答申を受けた文部省の対応——大臣官房政策課、教育助成局財務課

1 記念館めぐり——高知県立牧野植物園(高知県)

4 天然記念物歳時記——男女群島

表2 名作シリーズ——キリスト降誕

表3 文化財紹介——入江貝塚

カラ—

6 私と教育、私とつけ——陳 建一

50 焦点——文教施策

62 中教審ニュース——都道府県発

68 都道府県発——教育・学術・文化・スポーツニュース

宮城県塩竈市、栃木県大田原市、兵庫県、沖縄県

70 現代スポーツあれこれ——グラウンド・ゴルフ

72 行ってみよう やってみよう——国立淡路青年の家

74 海外教育ニュース

76 文学のふもと——小さな雪の町の物語

78 私の選んだ一冊——本間三和子

79 インフォメーション

82 鑑賞席

84 編集後記

小さな雪の町の物語

杉 みき子

冬のおとずれ

おしやれな少女が自分にいちばんよく似合う衣装や身のこなしを本能的に知っているように、土地というものも、どこかの土地にせよ、それぞれ自分の身をかざるにふさわしい季節を持つている。

この町は、自分にもっともふさわしい衣装として、冬という季節をえらんだ。

くもり日の似合う町である。長いがんぎに寄りそわれた木造の家なみは、この町に城のあった数百年のむかしから、すこしの変化もなく、低い空の下でまどろんでいるように見えた。

九月の末——家々のきんもくせいがいっせいに匂いはしめるころから、冬の予感がはじまる。それはいわば短かったまぶしい季節の最後のかげやきて、その高いかおりが長くはつづかず雨に散らされ、がんぎの果てにそびえるいちようの木がなまなましいレモンイエローに染まって、暗紫色の空をそこだけあざやかに切りとるころ、ことしの雪

のうわさがひとびとの口にのぼりだす。

一日のびれば冬が一日短くなる、とひとびとが降雪の日のおそいことを空だのみしているうちに、夜よるは波のしぶくようなくれがおとない、あられがトタン屋根を打つ。

子どもの息が白くなる。女たちはかぶ菜を洗う。からりと晴れぬがんぎの軒下へ、のれんを垂らすように、大根がさがり、柿がさがり、それがしだいに水分を失っていく。

木々の葉が落ちつくして、繊細な梢のからみあい、暗い空を背にしてレリーフのようにかびあがるとき——ひとひらの白いものが、ひっそりとこの舞台上に登場する。

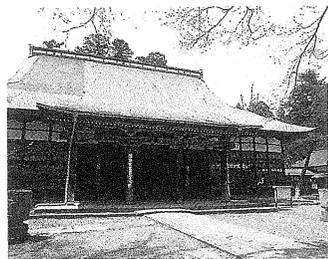
(出典) 新潟県文学全集(第一期/小説編) 第六巻 現代編III 郷土出版社



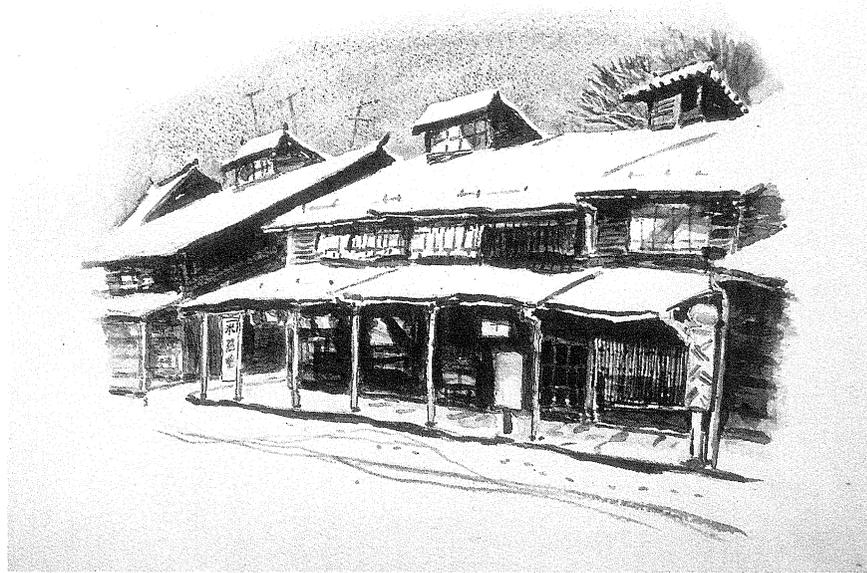
「雪道」村山 陽



春、夜桜と高田城



作者の住む寺町にある浄興寺本堂
(国指定重要文化財)



「がん木・初雪」村山 陽

高田(現在の上越市)は、戦国の武将上杉謙信の居城跡や江戸初期の松平忠輝の築城跡を残す城下町で、スキ一発祥の地としても知られている。町の東部には桜の名所として広く市民に親しまれている城跡の高田公園があり、遠くには妙高山が望まれ、「赤いろうそく」と人魚など北国の情感あふれる作品を残した童話作家小川未明の生まれた町でもある。

作者の杉みき子は、この町の寺町に生まれ、現在もここに生活して、雪国の地方色豊かな童話、小説、詩等の創作活動を展開している。作者は「小学校在学の時、小川未明が高田の出身で、しかも同じ小学校の先輩であることを知り、作品以上に深い感銘を受けた」と回想しており、児童文学の道を歩むきっかけになったようである。

『小さな雪の町の物語』は、小さな雪の町高田とその近在の農村を舞台に、そこで暮らす人々の生活を描いた短編集であり、昭和四七年に童心社から発表され、小学館文学賞を受賞した。プロローグ的位置付けの「冬のおとずれ」をはじめ、秋の深まりに梢に一つもぎ残された柿の実を来年の豊かな実りの守護ととらえてひっそり暮らす老婆の「きまもり」、嫁と姑の賢明な暮らしの「コマを描いた」「おばあちゃんの雪段」など一五編が収録されている。

杉みき子の作品に多くの挿し絵を協力してきた、同じ高田在住の村山陽氏(日展会友、一水会会員のスケッチが、その世界、抒情を見事に表現している。

杉みき子は昭和五年の生まれ、「かくまきの歌」(日本児童文学者協会新人賞、「小さな町の風景」(赤い鳥文学賞)、その他「朝やけまつり」、「加代の四季」など多数著している。

(新潟県教育委員会文化行政課副参事 小松茂夫)

特集 産学官の連携・協力の推進

巻頭言 8 一世紀の科学と産学連携

吉川弘之

座談会 10

産学官連携の新しい展開

出席者 小野田 武／四ツ柳隆夫／小林俊一／高橋真理子
／司会 磯田文雄

論文 22 産学官連携推進と転換期を迎えた

地域共同研究センター

石原 修

エッセイ 24 地方から新風を

板東久美子

事例紹介① 26 大学から産業界への技術移転システムの構築

株式会社先端科学技術インキュベーションセンター

事例紹介② 28 進化する産学官の連携

立命館大学

事例紹介③ 30 アメリカの産学連携

日本開発銀行

事例紹介④ 32 産学連携における

ベンチャー・キャピタルの役割

株式会社宮崎太陽キャピタル

事例紹介⑤ 34 産学共同でシステムLSI開発・設計の

本格的ベンチャー会社を設立——株式会社シンセシス

解説 36 大学と産業界との連携協力について

学術国際局研究助成課研究協力室

42 資料

49 産学官共同研究関連用語解説

カラー

1 記念館めぐり・ゆかりの地を訪ね

棟方志功記念館（青森県）

4 天然記念物歳時記

大杉谷

表2 名作シリーズ

聖アントニウスの誘惑

表3 文化財紹介

島根県荒神谷遺跡出土品

6 私と教育、私とつけ

キャシー中島

50 焦点 文教施策

都道府県発

福島県、長野県、岡山県、福岡県

66 科学はいま 国立極地研究所

現代スポーツあれこれ トライアスロン

70 行ってみよう やってみよう 国立山口徳地少年自然の家

72 海外教育ニュース 国立山口徳地少年自然の家

74 文学のふるさと 神通川

76 私の選んだ一冊 杉原 正

77 インタビュー

82 鑑賞席

84 編集後記

神通川 じんづうがわ

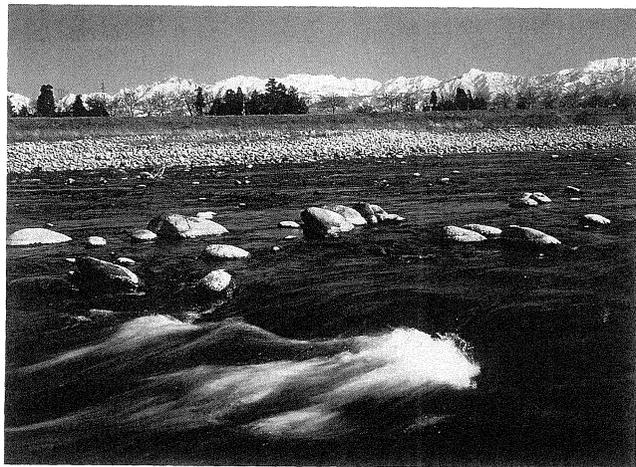
新田次郎

昭和四十二年十二月十五日、熊野正澄と大森教授は参議院において、イタイイタイ病について証言した。

「私は学問もなく地位もバックもない田舎の開業医ですが、イタイイタイ病の患者があまりにも気の毒でなりませんので、この病気をなんとかして治そうとして、いままで努力して来ました」

彼は、自分自身嫌になるほど使ったその言葉をまた使った。使い古された言葉だったが、それ以外にいすべき言葉はなかった。本論に入ってからでも彼は平静さを崩さなかった。田舎の開業医になが分るかと罵倒されていたころがふと思ひ出された。その開業医であったことが、いまとなれば有難いことと思われた。彼に対しての中傷や妨害や偉大な力を持つてひしひしと詰め寄って来た幽霊の存在さえ、むしろイタイイタイ病研究の促進剤になったのではなかったかと思つた。語ることはもうなかった。いすべきことは云つてしまった。彼は軽く一礼して眼を閉じた。

〔出典「神通川」昭和四十六年九月一日 立風書屋〕



初雪と神通川



暮れゆく神通峡

新田次郎（一九二一—一九八〇）作「神通川」は、富山県のほぼ中央を流れる神通川の下流周辺に発生した奇病「イタイイタイ病」の原因を突きとめるまでの、一開業医の苦闘を描いたドキュメンタリー小説である。ビルマから復員後、故郷に帰った熊野正澄（萩野昇氏がモデル）は家業の医院を継いだ。診察室には骨の疼痛を訴える婦人の患者が次々と現れた。痛い、痛いと言き叫ぶ原因不明のこの病気に、熊野医師はイタイイタイ病と名づけた。

彼は、この奇病の原因は、神通川上流の亜鉛鉱山の鉱毒と推論した。熊野医師は売名行為か口止め料を狙ってあんな事を言い出していると非難され、その圧力はまるで幽霊のようで、正体を見せなかった。鉱山は、日本有数の巨大企業の経営によるものであった。

孤独な闘いを続ける彼に、やがて強力な助っ人が現れた。備州大学（岡山大学）理学部大森敬介教授（小林純教授がモデル）で、スペクトル化学分析の権威者であった。分析の結果、被害地区の米や水稲の根から大量のカドミウムが検出されたのである。

昭和四三年五月八日、厚生省は、イタイイタイ病の原因はカドミウムであり、そのカドミウムは鉱山から流れ出たものであることを発表した。一介の開業医の苦闘がやっと報いられたのである。

萩野医師は著書「イタイイタイ病との闘い」（朝日新聞社刊）で、「古来から神の通る神通川が悪魔の通る川になっていた。公害はなんの責任もないものが苦しんで死んでいく殺人者である。」と切に切っている。

（富山市民大学講師 伊藤了一）

特集 新国立劇場完成

巻頭言 ● 8 新国立劇場の竣工に当たって ◆三浦朱門

座談会 ● 10 新国立劇場の竣工を迎えて
◆出席者 吉武泰水／遠山一行／吉井澄雄／三浦容子／西澤敏一 ◆司会 霜島秋則

随想 ● 20 夢が叶うことを信じて ◆加戸守行

エッセイ ● 24 聴衆も含めた総合芸術の殿堂に ◆青野照市

● 25 新国立劇場への期待 ◆森 英恵

● 26 新国立劇場と胎動する地方劇場群 ◆永菅信夫

施設紹介 ● 28 新国立劇場探訪

◆野田秀樹／高橋薫子／佐々木想美 ◆案内 簡内 剛

● 32 新国立劇場の設計意図 ◆柳澤孝彦

● 36 新国立劇場の概要

◆日本芸術文化振興会新国立劇場準備室

事業紹介 ● 42 財団法人新国立劇場運営財団

活動内容紹介 ◆財団法人新国立劇場運営財団

関連施設紹介 ● 46 東京オペラシティの

文化施設について ◆東京オペラシティアーツ株式会社

カラー

1 ある日の学校訪問記

◆下館市立下館中学校(茨城県)

4 天然記念物歳時記「花でよみ

◆樫のシデコブシ(愛知県)

表2 名作シリーズ

◆雪柳と海芋に波敷の壺

表3 文化財紹介 ◆四日市旧港湾湾施設

6 であいふれあい ◆松岡修造

48 焦点―文教施策

54 中教審ニュース

64 ポイント生涯学習

◆放送大学の全国化

66 都道府県発―教育・学術・文化・スポーツニュース

◆青森県 ◆秋田県 ◆埼玉県 ◆沖縄県

68 どんな講座 こんな講座―大学の公開講座から

◆三重大学 ◆芝浦工業大学

70 現代スポーツあれこれ

◆国民体育大会

スポーツの文化装置としての機能

72 科学は、いま―理工系へのいざない

◆東北大学電気通信研究所

75 鑑賞席 ◆モダンデザインの父

ウィリアム・モリス展

76 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆国立山口徳地少年自然の家

78 海外教育ニュース

80 文学のふもと ◆抒情小曲集

82 お知らせ

82 読者からのたより

84 編集後記

抒情小曲集

室生犀星

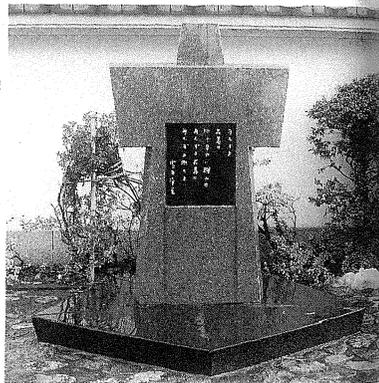
犀川 さいかは

うつくしき川は流れたり
 そのほとりに我は住みぬ
 春は春、なつはなつの
 花つける堤に坐りて
 こまやけき本のなきけと愛とを知りぬ
 いまもその川のながれ
 美しき微風とともに
 蒼き波たたへたり

(出典『日本詩人全集15 室生犀星』新潮社)



犀星が生涯愛惜した犀川と金沢市街全景。
犀川の美しい流れは今も変わらない。



犀川河畔に建つ犀星文学碑
(金沢市中川除町)

ふるさととは速きにありて思うもの
そして悲しくうたうもの

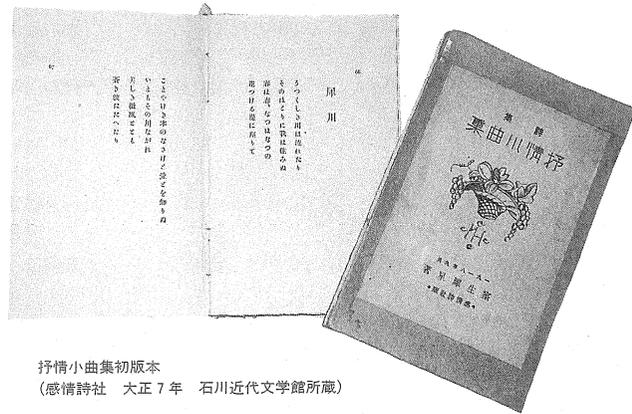
評価を不動にし、七十二歳で亡くなるまでの半世紀ちかく、詩人・小説家として精力的な文学活動を展開した。代表作は『幼年時代』、『性に眼覚める頃』、『あにいもうと』、『杏っ子』など。

この「小景異情 その二」の一節はあまりにも有名な。東京にいれば懐かしいふるさと金沢も、帰ってみれば「帰るところにあるまじや」と思い悩む所もあった。それでも、美しく流れる犀川だけは、いつの時も心を癒してくれたにちがいない。

犀星は、徳田秋声・泉鏡花とともに郷土の三文豪とよばれる。白鳥路にはその銅像が建つ。石川近代文学館には、この三文豪を中心に郷土ゆかりの文学者の貴重な資料が公開展示されている。

犀川大橋から桜橋までの河畔は「犀星のみち」として整備され市民に親しまれている。その中ほどに建つ「室生犀星文学碑」。碑石は子供の厄払いに犀川に流した流し雛をかたどっている。

(石川県県民文化局文化振興課 塩川義雄 芸術文化係長)



抒情小曲集初版本
(感情詩社 大正7年 石川近代文学館所蔵)

加賀百万石の城下町の趣を今に残す金沢。兼六園・石川門、武家屋敷、東・西の茶屋街……。能楽をはじめ邦楽、茶道など伝統文化が豊かに息づいており、藩政期に「天下の書府」と呼ばれた文化的土壌は数々の優れた文学作品の舞台となっている。

室生犀星(明治二十二年―昭和三七年)にとって、犀川はこころの故郷、文学の源泉でもあった。大正七年に刊行した詩集『抒情小曲集』で詩人としての

特集 新しい文化立国をめざして

巻頭言 ● 6 固有と共有の共成 ● 三善 晃

座談会 ● 8 新しい文化立国をめざして
(出席者) 高階秀爾 / 小島美子 / 鈴木忠志 / 遠山敦子

論文 ● 18 文化立国と実演家 ● 小泉 博

● 22 劇場が新しい時代を創る
ピッコロシアターの試み ● 山根淑子

● 26 指定制度と登録制度
文化財保護制度の新たな展開 ● 鈴木博之

随想 ● 30 芸術家在外研修の思い出 ● 奥谷 博

事例紹介① ● 32 新しい芸術文化施設の運営をめざして
● 水戸芸術館

事例紹介② ● 36 からむし生産技術保存事業の展開
● 昭和村からむし生産技術保存協会

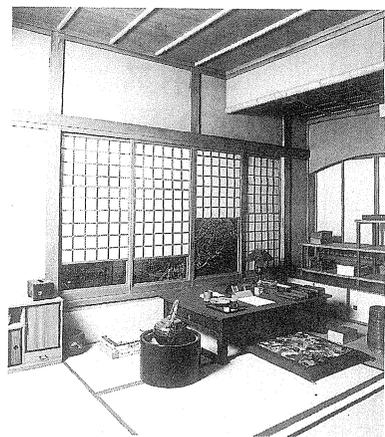
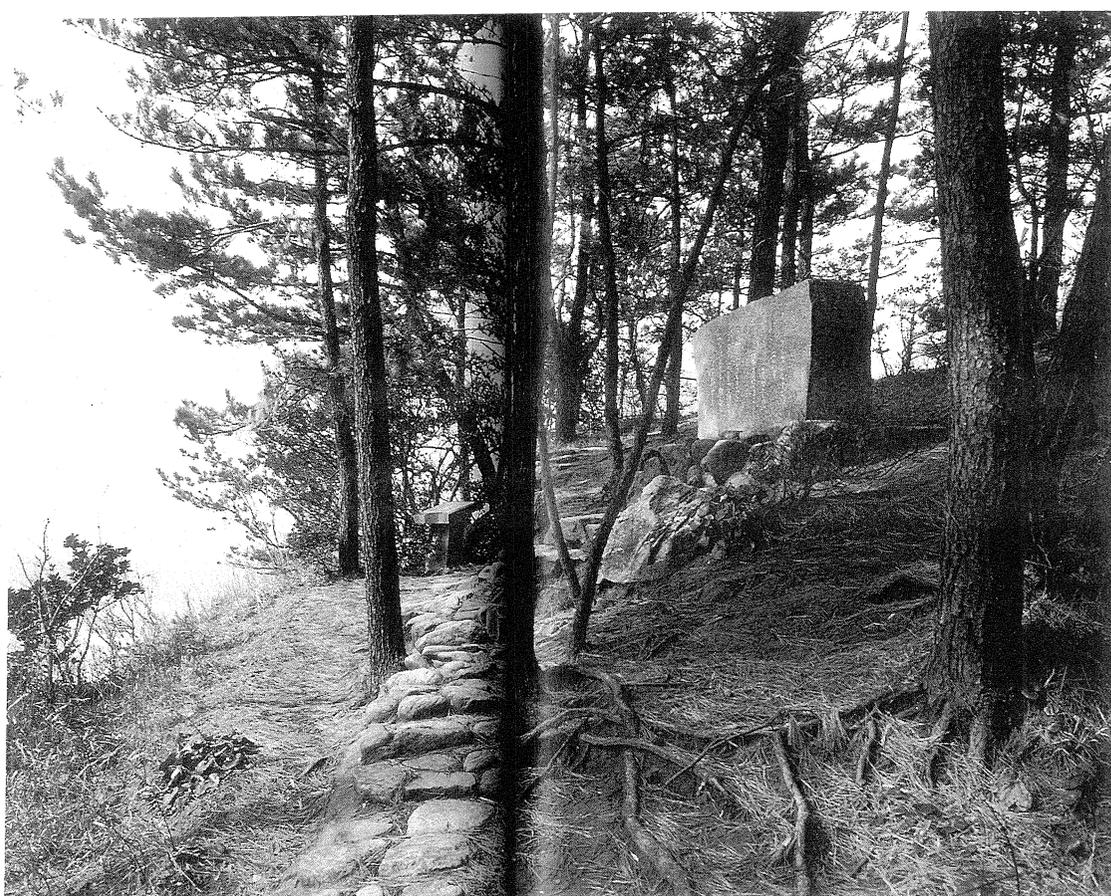
資料 ● 40 新しい文化立国をめざして
文化振興のための当面の重点施策について(報告)
● 文化政策推進会議

カラー

- 1 いま、ま個性ある日の学校訪問記
- 櫛形町立櫛形西小学校(山梨県)
- 4 天然記念物歳時記
- 高瀬深谷の噴湯丘と
球状石灰石(長野県)
- 表2 名作シリーズ ● 絹本著色聖徳太子絵伝
- 表3 文化財紹介 ● 輪島塗

- 50 人・この道 ● 深尾良夫
- 51 教育・文化と地域づくり④ ● 山口県徳地町
- 54 焦点 | 文教施策
- 64 中教審ニュース
- 67 私の本棚から ● 香川芳子
- 68 都道府県発 ● 教育・学術・文化ニュース
● 山形県・兵庫県・富山県・長崎県
- 70 こんにはほにつぼん ● キン・マウン・キョー
● ソフトボール
- 72 '96アトランター 我が国競技スポーツの最前線
- 74 科学は、いま 理工系へのいざなひ
● 東京大学海洋研究所
- 77 鑑賞席 ● 現代マヤ
色に織に魅せられた人々
- 78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
● 国立妙高少年自然の家
- 80 海外教育ニュース
- 82 文学のふるさと ● われは草なり
- 84 編集後記

われは草なり



「高見順の書斎」北鎌倉の自宅の書斎を忠実に復元した（三国町龍翔館）

「荒磯遊歩道の文学碑」
碑銘は川端康成が執筆

われは草なり 伸びんとす
伸びられるとき 伸びんとす
伸びられぬ日は 伸びぬなり
伸びられる日は 伸びるなり

われは草なり 緑なり
全身すべて 緑なり
毎年かはらず 緑なり
緑のおのれに あきぬなり

われは草なり 緑なり
緑の深きを 願ふなり

ああ生きる日の 美しき
ああ生きる日の 楽しきよ
われは草なり 生きんとす
草のいのちを 生きんとす

高見順は、明治四〇年一月、福井県三国町で生まれた。父は福井県知事坂本鈇之助、母は三国町生まれの娘高間古代であった。当時、知事は三国にたびたび視察に訪れていたが、古代との間に生まれたのが順であった。父の東京転勤に伴い、順は母と祖母とともに東京都麻布に移り住んだが、二〇年間は故郷三国に一度も足を踏み入れなかった。

東尋坊の遊歩道にある文学碑には、次の「荒磯」の一節が刻まれている。

おれは荒磯の生れなのだ／おれが生れた冬の朝／黒い日本海ははげしく荒れていたのだ／怒濤に雪が横なぐりに吹きつけていたのだ。

高見順の文学においては、小説、日記、詩のいずれにあっても、出生への思いからくる暗い影や迫りくる死と対峙する力が文学創造の原動力となっている。

小学校五年生の教科書にも取り上げられている「われは草なり」は昭和二〇年四月、『高見順日記』に収められた詩である。東京空襲の悲惨さを述べた日記があり、「草の命をしみじみ美しいと思った。」という一文の後にこの詩がある。文語定型の流れのような詩でありながら、同一語の反復、強い断定や言い切りの多用は、読む者に生きるということの意味を鋭く問いかける。この詩を読むと、自分の人生の暗い思いや戦時下の息苦しい状況を強い意志で払拭しようとする、草の緑、美しさに精神を集中する順のひたすらな魂の叫びを聞くことができる。

没後二〇年の昭和六〇年以來、毎年、文学碑の前で「荒磯」が催され、三国の郷土資料館・龍翔館には彼の作品・遺品等が多数展示されている。故郷を拒絶して生きた高見順の魂は、死の淵から故郷に帰り、今、日本海の荒海を見おろしているのである。

（福井県教育委員会指導課指導主事 黒田不二夫）

特集 進む高校教育改革

巻頭言 ● 8 高校改革に期待する ◆ 森 隆夫

座談会 ● 10 高校教育改革の現状と課題
◆(出席者)増井俊明/笠原喜平/勝方信一/今井通子 ◆(司会)本間政雄

論文 ● 20 高校教育改革と高校教育の
日本的構造 ◆ 巨塚寛明

● 24 高校教育の目的は「進路指導」
高校教育の改革に期待する ◆ 桐村晋次

● 28 生徒一人一人を生かす高等学校 ◆ 佐野金吾
エッセイ ● 32 高校時代を振り返って ◆ 江上節子

事例紹介 ① ● 34 千葉県における学校間連携の歩み
◆ 千葉県教育委員会

事例紹介 ② ● 37 専修学校における学習成果の単位認定
◆ 静岡県立静岡商業高等学校

事例紹介 ③ ● 40 心を育てる教育を目指して
◆ ミニオン・コミュニケーションズの設置 ◆ 熊本県立南関高等学校

解説 ● 43 進む高校教育改革について

● 43-1 高校教育改革の推進状況について
◆ 初等中等教育局高等学校課高校教育改革推進室

● 47-2 へき地学校高度情報通信設備
(マルチメディア)活用方法研究開発事業
◆ 教育助成局財務課教育財務企画室

カラー

ある日の学校訪問記

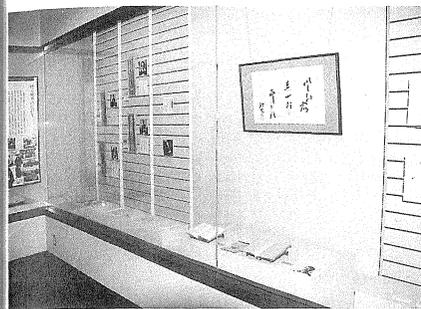
- ◆ 広島県立盲学校(広島県)
- 4 天然記念物歳時記「花ごよみ」
- ◆ コウシンソウ自生地(栃木県)
- 表2 名作シリーズ ◆ 榎上の花
- 表3 文化財紹介 ◆ 出水麓

- 6 であいふれあい ◆ 久保亮之
- 48 焦点 | 文教施策
- 58 お知らせ
- 60 露が関トビックス
- 62 中教審ニュース
- 66 ポイント生涯学習
- ◆ 初めての地域生涯学習振興基本構
想の承認について
- 68 都道府県発 | 教育・学術文化・スポーツニュース
◆ 茨城県 ◆ 大阪府 ◆ 広島県 ◆ 香川県
70 どんな講座こんな講座 | 大学の公開講座から
◆ 北海道大学 ◆ 筑波大学
- 72 現代スポーツあれこれ
◆ みるスポーツ
- 74 科学はいま | 理工系のいざない
◆ 東北大学反応化学研究所
- 77 鑑賞席 ◆ どうして像はつくられたの?
子どもたちの美術展
- 78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
◆ 国立夜須高原少年自然の家
- 80 海外教育ニュース
- 82 文学のふもと ◆ 学の露
- 84 編集後記

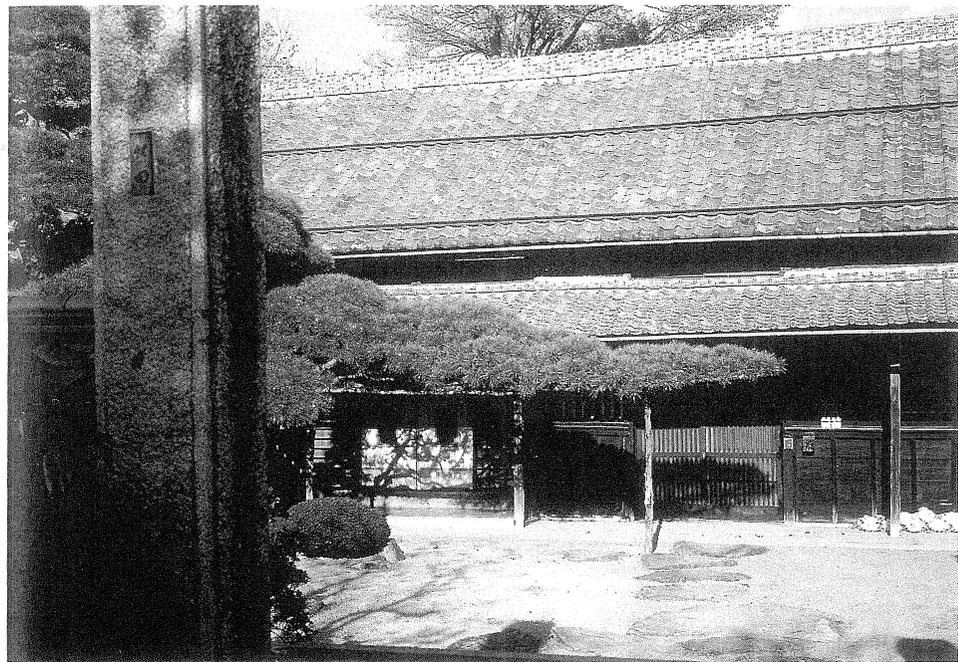
芋の露

飯田蛇笏

春めきてものの果てなる空の色
炎天を槍のごとくに涼気すぐ
芋の露連山影を正しうす
くろがねの秋の風鈴鳴りにけり
冬滝のきけば相つぐこだまかな



山梨県立文学館常設展示室・蛇笏コーナー（一部）



飯田蛇笏生家

甲斐の国山梨は、富士の雄姿をはじめ、八ヶ岳、南アルプス連峰など、多くの高山がそびえている。四季折々の変化に富み、夏季は炎暑、秋ともなれば清澄の気に満ちる。

山梨の自然が生んだ文学者、飯田蛇笏は、明治一八年四月、甲府盆地東南の丘陵地帯、現在の東八代

郡境川村に生まれた。十代の終わりに上京、高浜虚子らのもとで句作に励んだが、二四歳で帰郷し、田園生活に入った。

大正初年代、蛇笏は「ホトトギス」に盛んに投句。三年には、代表作の一つ「芋の露」の句を得ている。七七年の生涯のほとんども故郷で過ごし、自然と生活を送って独自の境地を開き、格調高く、荘重な句風を確立していった。いわゆる蛇笏調である。句集『山嵐集』をはじめ、数々の名句と著書を残し、近代俳句史に燦然と輝いている。

大正四年、俳誌「キヲ、」が創刊され、蛇笏は第二号から選者になった。後に主宰となり、誌名を「雲母」と改めた。「雲母」は蛇笏没後も平成四年まで刊行された。蛇笏の精神は脈々と受け継がれ、幾多の優れた俳人を生んでいる。

平成元年開館の山梨県立文学館は、その「顔」としての蛇笏の全貌を概観できる資料を常設展示。四年には没後三〇年を節目として「飯田蛇笏展」を開催し、多くの人々が訪れた。

蛇笏は、生前自らの句碑の建立を頑として認めなかったと言われているが、没後一年、有志によって文学碑が甲府城址に建立された。現在は県立文学館の建つ芸術の森公園に移され、日夜、甲斐の山々を見つめ続けている。

芋の露連山影を正しうす
蛇笏唯一の句碑である。

（山梨県立文学館学芸課長 斉藤幸三）



芸術の森公園にある蛇笏句碑

特集 文化会館を核とした文化のまちづくり

巻頭言 ● 6 文化会館に求められるもの・山崎正和

座談会 ● 8 文化会館を拠点とした

特色ある芸術文化活動の展開

・出席者 諸井 誠／衛 紀生／桜井俊幸／佐藤まゆみ・司きし居 正

論文 ● 18 文化会館とアート・マネージメント

「施設」から「装置」へ・美山良夫

● 22 文化会館は文化の発信・受信基地・川口 純

エッセイ ● 26 ホールの運営とは・江戸京子

事例紹介 ⑩ ● 28 音楽のまちづくりと公民館・田園ホール・エローラ

事例紹介 ⑪ ● 31 厚木こどもミュージカル・厚木市文化会館

事例紹介 ⑫ ● 34 武生国際音楽祭によるまちづくり・武生市文化センター

事例紹介 ⑬ ● 37 緑をハックに演劇村計画

小さな村から夢と希望をのせて演劇文化発信・島根県八雲村

事例紹介 ⑭ ● 40 「演劇の町」への自信の芽生え・岩手県湯田町教育委員会

解説 ● 43 文化庁による文化会館の支援施策・文化庁文化部地域文化振興課

特別記事 これからの特殊教育諸学校施設づくり

● 46 特殊教育の展開と施設設備への期待・林 友三

解説 ● 48 これからの盲学校・聾学校及び養護学校施設づくり

・大臣官房文教施設部指導課

事例紹介 ① ● 50 視覚障害教育の専門機関としての機能を備えた学校

・東京都立久我山盲学校

事例紹介 ② ● 53 最新設備による聴覚障害児教育の充実・神奈川県立平塚ろう学校

事例紹介 ③ ● 56 太陽の光と仲よく学ぶ・群馬県太田市立太田養護学校

カラー

いまでも個性ある日の学校訪問記

● 南種子町立南種子中学校(鹿児島県)

4 天然記念物歳時記

● 与那覇岳天然保護区域(沖縄県)

表2 名作シリーズ・多武峰曼茶羅

表3 文化財紹介

● 紙本金地著色南蛮人渡来図

58 エクスコ五十周年記念式典を挙行

― 皇太子殿下・同妃殿下が御臨席

59 教育文化と地域づくり⑦・滋賀県安曇川町

62 焦点―文教施策

64 人への道・増田四郎

65 私の本棚から・岸 國平

66 中教審ユース

68 都道府県発―教育・学術文化ユース

69 埼玉県・三重県・高知県・沖縄県

70 こどもはにほん・フラトカ・ウアンダ

72 96アトランタ―我が国競技スポーツの最前線

・アーチERY

74 科学はいま―理工系へのびき

75 佐賀大学低平地防災研究センター

77 鑑賞席

● 身体と表現 1920～1980

ポピュラー・ダンス・所蔵作品から

78 ぼくたち、わたしたちのワイクエント

● 国立大雷青年の家

80 海外教育ユース

82 文学のふもと・山の温泉

― 千曲川のクマヤリ

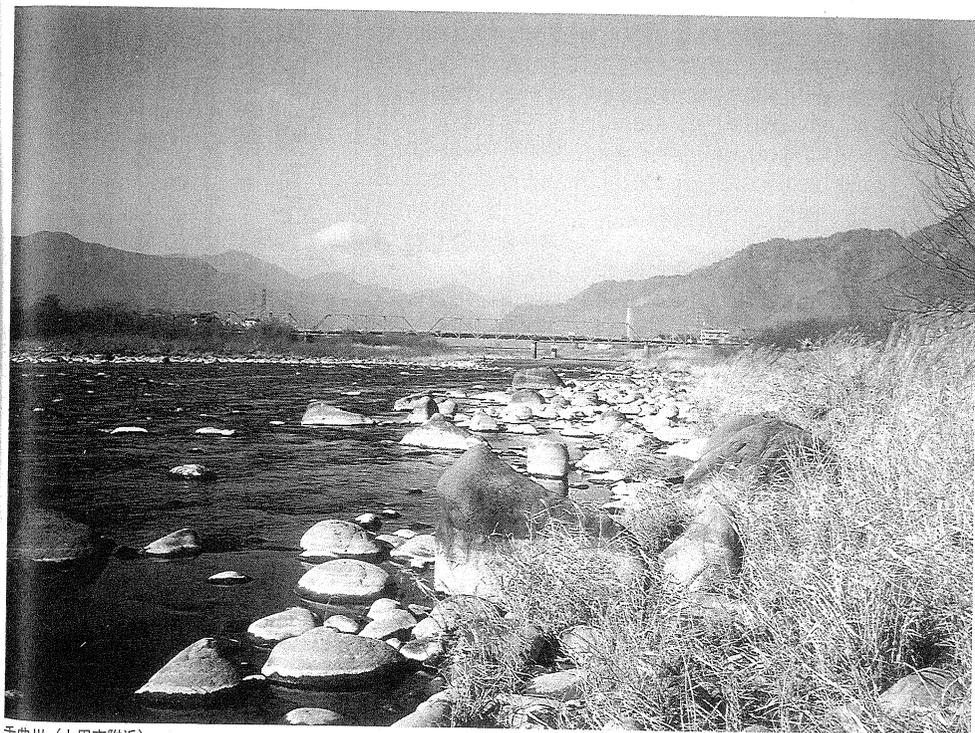
84 編集後記

山の温泉

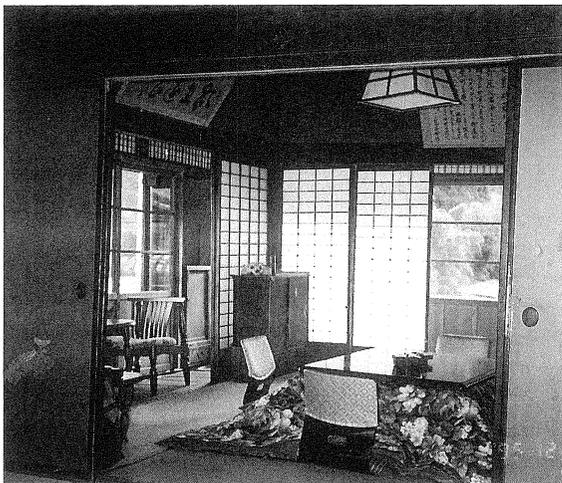
千曲川のスケッチより

翌日は朝霧の籠った谷に朝の光が満ちて、近い山も遠く、家々から立登る煙は霧よりも白く見えた。浅間は隠れた。山のかなたは青が、った灰色に光った。白い雲が山脈に添うて起るのも望まれた。国さんという可憐の少年も姉娘に附いて来ていて、温泉宿の二階で玩具の銀笛を吹いた。

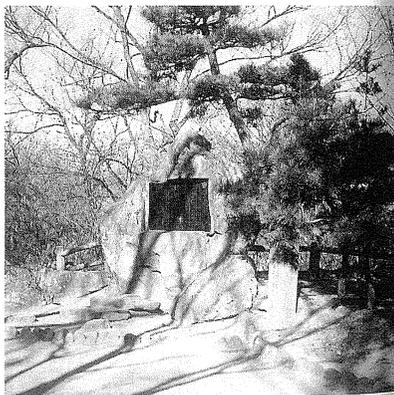
そこは保福寺峠と地蔵峠とに挟まれた谷間だ。二十日の月はその晩も遅くなって上った。水の流が枕に響いて眠られないので、一旦寝た私は起きて、斯ういふ場所の月夜の感じを味つた。高い欄に倚凭って聞くと、さまざまの虫の音が水音と一緒に成って、斯の谷間に満ちて居た。



千曲川 (上田市附近)



温泉宿と「藤村の間」
(田沢温泉)



藤村碑 (小諸市内)

島崎藤村は、明治三二年四月、恩師木村熊二校長の招きで、家族とともに小諸義塾へ赴任した。二八歳のときである。

『千曲川のスケッチ』は、その翌年から書き溜められ、後年になって出版された。

明治五年、木曾の山里「馬籠」に生まれた藤村は、九歳で上京し都会生活に入ったため、農村の生活はほとんど見聞きすることなく育った。

小諸に来てから、周辺の農村生活の現実にふれたり、様々な人々と出会ったりする中で、スケッチが生まれる。

藤村は『千曲川のスケッチ』の奥書で、「自分の第四の詩集(落梅集)を出したころ、わたしはもつと事物を正しく見ることを学ぼうと思いたった」と述べている。詩作から散

文へという新しい道を歩み始めたのである。また、小諸義塾の教え子に「私の散文は、『千曲川のスケッチ』に出发した」と語ったという。それがやがて、初めての長編小説『破戒』の執筆につながっていく。

タイトルの「山の温泉」は、明治三四年上田市郊外の田沢温泉に遊んだときの記述である。これは、地元の高校教師たちの編纂した『ちひさがたの風』という副読本にも紹介されている。温泉宿「ますや」は今も営業している。そして、藤村が宿泊した部屋を「藤村の間」として当時のままに保存し、宿泊客が希望すれば泊めてもくれる。また、この宿は短編小説「老嬢」の舞台にもなっているのである。

(長野県上田市立神科小学校教頭 柳澤長男)

特集 放送大学の全国化

巻頭言 ● 8 放送大学の全国化へ向けて ◇井上孝美

対談 ● 10 放送大学に望む
◇小尾信彌／宮本美沙子

論文 ● 18 放送大学の将来 ◇星野英一

● 21 今後の放送大学の在り方 ◇立石信雄

随想 ● 24 効率性よりもまず倫理性の志を ◇酒井 昭

● 26 学び続けること ◇椎名敬子

● 28 放送大学と私 ◇御手洗理英

事例紹介 ● 30 放送大学における様々な試み
◇放送大学学園

解説 ● 38 諸外国の遠隔教育機関との交流
◇放送大学学園教務部教務課

● 40 放送大学の現状と今後の課題
◇生涯学習局生涯学習振興課

● 43 資料

● 48 やさしい用語解説

1 ある日の学校訪問記
◇京田辺市立田辺東幼稚園（京都市）

4 天然記念物歳時記
◇岬馬およびその繁殖地（宮崎県）

表2 名作シリーズ ◇雲中天壇

表3 文化財紹介
◇富田城跡（鳥取県）

カラー

6 であいふれあい ◇丹羽雅子

49 焦点―文教施策

55 お知らせ

59 中教審ニュース

66 鑑賞席 ◇村岡三郎近作展
◇開館一〇〇周年記念特別展覧会
桃山絵画讃歌
黄金のとき ゆめの時代

68 家庭教育のための取組

70 家庭教育部への理解を深めるために
都道府県発―教育芸術文化ニュース
◇青森県中里町 ◇岐阜県中津川市
◇福井県 ◇長崎市

72 どんな講座こんな講座―大学の側面から
◇宮城教育大学

74 現代スポーツあれこれ
◇公立女子大学、公立女子短期大学

76 科学は、いま
◇民間スポーツ施設への支援について

78 行つてみようやってみよう
◇国立那須甲子少年自然の家

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◇奥の細道

84 編集後記

奥の細道

松尾芭蕉

大垣

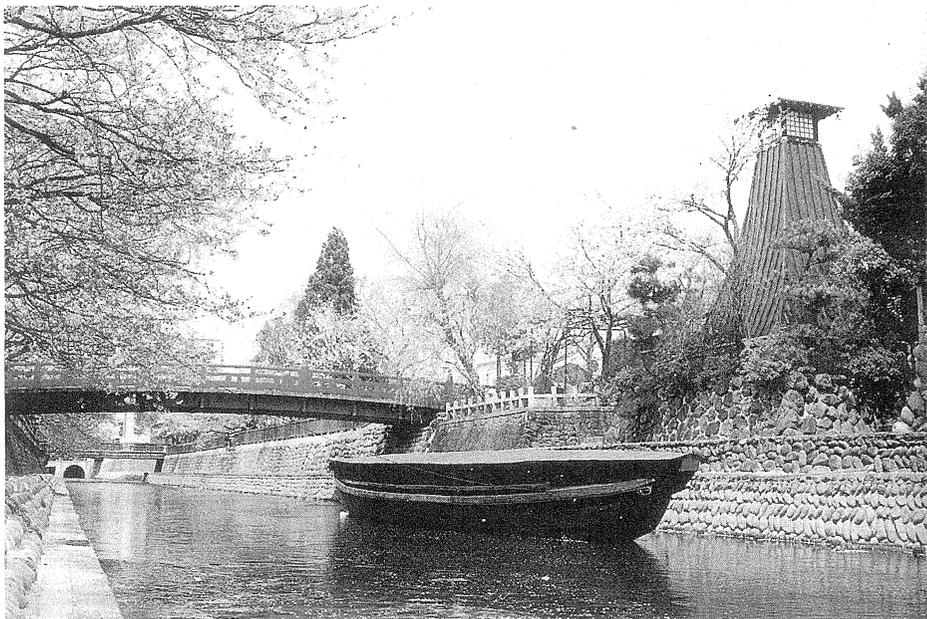
露通もこの港まで出て迎ひて、美濃の国へと伴ふ。駒に助けられて大垣の庄に入れば、曾良も伊勢より来り合ひ、越人も馬を飛ばせて、如行が家に入り集まる。前川子・荊口父子、その外親しき人々、日夜訪ひて、蘇生の者に会ふがごとく、かつ喜びかついたはる。旅のものうさもいまだやまざるに、長月六日になれば、伊勢の遷宮拝まんと、また舟に乗りて、

蛤の

ふたみに

別れ行く秋ぞ

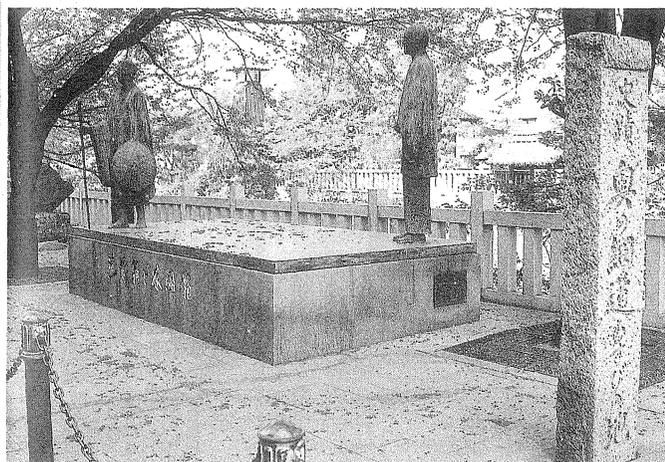
(出典)『新訂 おくのほそ道』角川文庫



史跡・船町港跡



松尾芭蕉像



奥の細道むすびの地 (芭蕉・木因像)

元禄二年(一六八九)の秋、松尾芭蕉は約五か月、二四〇〇kmにわたる漂泊の旅を、ここ大垣で終えた。有名な「奥の細道」の旅である。その折、芭蕉は「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」と詠んで、市内を流れる水門川の船町港から桑名へ舟で下り、伊勢神宮の遷宮を拝みに旅立った。

芭蕉が最初に大垣を訪れたのは、貞享元年(一六八四)の「野ざらし紀行」の旅の途中に、俳友・谷木因(芭蕉と京都の北村季吟門の相弟子)を訪ねたのが始まりで、以後三回来垣している。

当時、大垣の俳諧は、藩主の文教奨励もあって、谷木因をはじめ、芭蕉を慕って入門した藩士たちが多くいた。その後、大垣俳壇の「蕉風」俳諧は美濃一円に広がり、美濃俳諧としての基礎が固まった。

大垣では、「奥の細道むすびの地」としての歴史的な遺産を大切に守りながら、「芭蕉蛤塚 忘全国俳句大会」を毎年一〇月に開催し、全都道府県からの投句を基にして盛大に顕彰している。

船町港の燈台付近には、「蛤のふたみへ別れ行く秋ぞ」と初案の句が刻まれている。「芭蕉送別連句塚」や、芭蕉のために木因が考えてつくったと云われる「木因俳句道標」がある。周辺にも多くの句碑や翁塚があり、大垣と芭蕉のつながりの深さを物語っている。

大垣市は、こうした文化を誇りに思うとともに、文化の香り高い一層近代的なまちづくりに取り組んでいる。

(奥の細道むすびの地記念館館長 清水昭幸)

特集 今、学生は

巻頭言 ● 8 実りのある学生生活のために ◆ 金森順次郎

座談会 ● 10 学生ニーズの多様化と
大学改革の動向
◆ 出席者 武藤輝一 / 高島正夫 / 鎌川芳子 / 永井順國 / ◆ 司会 櫻井 清

論文 ● 20 大学改革と学生 ◆ 辰村吉康

事例紹介 ① ● 24 育ち直しの場としての学生相談室
◆ 東京都立大学

事例紹介 ② ● 27 学生ボランティアの活躍
◆ 徳山 明

事例紹介 ③ ● 30 新規学卒者採用の新たな試み
◆ トヨタ自動車株式会社

事例紹介 ④ ● 33 アルバイト活動から見た学生像の変遷
◆ 株式会社高島屋京都店

解説・資料 ● 36 学生生活の現状及び学生サービスについて
◆ 高等教育局学生課

Q & A ● 47 就職に関するQ&A

カラー

1 ある日の学校訪問記

◆ 平内町立浅所小学校 (青森県)

4 天然記念物歳時記「花ごよみ」

◆ 湯ノ宮の座論梅 (宮崎県)

表2 名作シリーズ ◆ 伏見の茶亭

表3 文化財紹介 ◆ 高山陣屋跡

6 てあい・ふれあい ◆ 佐藤しのぶ

49 焦点 ― 文教施策

52 お知とせ

54 中教審ニュース

57 刊行物紹介

58 霞が関トピックス

60 ポイント生涯学習

◆ 男女共同参画社会の形成に向けて

62 都道府県発 ― 教育・学術文化スポーツニュース

◆ 宮城県 ◆ 栃木県 ◆ 佐賀県 ◆ 熊本県

64 どんな講座こんな講座 ― 大学の公開講座から

◆ 旭川医科大学 ◆ 奈良女子大学

66 現代スポーツあれこれ

◆ オリジナルチーム・ブメントについて

68 科学は、まー理系へのいざない

◆ 東京大学分子細胞生物学研究所

71 鑑賞席 ◆ 萬 鐵五郎展

72 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

◆ 佐賀県北山少年自然の家

74 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◆ 伊豆の踊子

84 編集後記

伊豆の踊子

川端康成

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃、両脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。

私は二十歳、高等学校の制帽をかぶり、紺飛白の着物に袴をはき、学生カバンを肩にかけていた。一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。修善寺温泉に一夜泊り、湯ヶ島温泉に二夜泊り、そして峠の高下駄で天城を登って来たのだった。重なり合った山々や原生林や深い溪谷の秋に見惚れながらも、私は一つの期待に胸をときめかして道を急いでいるのだった。そのうちに大粒の雨が私を打ち始めた。折れ曲った急な坂道を駆け登った。ようやく峠の北口の茶屋に辿りついてはとすると同時に、私はその入口で立ちすくんでしまった。余りに期待がみ

ごとの中しただからである。そこで旅芸人の一行が休んでいたのだ。突っ立っている私を見た踊子が直ぐに自分の座蒲団を外して、裏返しに傍へ置いた。

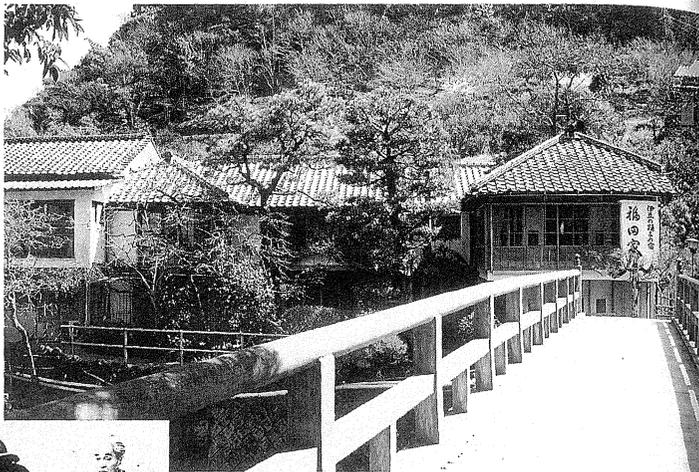
「ええ……」とだけ言って、私はその上に腰を下ろした。坂道を走った息切れと驚きとで、「ありがとう」という言葉が咽にひっかかって出なかつたのだ。

踊子と真近に向い合つたので、私はあわてて袂から煙草を取り出した。踊子がまた連れ女の前の煙草盆を引き寄せて私に近くしてくれた。やっぱり私は黙っていた。

踊子は十七くらいに見えた。私には分らない古風の不思議な形に大きく髪を結っていた。それが卵形の凛々しい顔を非常に小さく見せながらも、美しく調和し



「伊豆の踊子」像（河津町・七滝温泉）



作品に出てくる旅館「福田家」



映画「伊豆の踊子」（昭和38年・西河克己監督）ロケーションにて吉永小百合の演技を見つめる川端康成（天城湯ヶ島「湯元館」所蔵写真から）

ていた。髪を豊かに誇張して描いた、稗史的な娘の絵姿のような感じだった。踊子の連れは四十代の女が一人、若い女が二人、ほかに長岡温泉の宿屋の印半纏を着た二十五六の男がいた。

私はそれまでにこの踊子たちを二度見ているのだった。

〔出典〕『川端康成集 新潮日本文学15』新潮社

一九一七（大正七）年の一〇月末、二〇歳の川端康成は初めて伊豆を旅します。旧制第一高等学校二年生の彼は、嫌いな寮生活や孤児のような生い立ちからきたひがみ根性や暗さから抜け出したいと、この旅を思い立ったのです。この旅の途上、伊豆天城峠で美しい旅の踊子と出会います。彼はこの出会いの思い出を「七年前、一高生の私が初めてこの地に来た夜、美しい旅の踊子がこの宿へ踊りに来た。翌る日、天城峠の茶屋でその踊子に会った。そして南伊豆を下田まで一週間程、旅芸人の道づれにしてもらって旅をした。その年踊子は十四だった。小説にもならない程幼い話である（随筆「湯ヶ島温泉」）と書き残しています。この出会いが、名作「伊豆の踊子」誕生のきっかけとなりました。

その後、川端康成は、一九二六（大正十五）年、二八歳の時に、この小説にもならない程幼い話を小説「伊豆の踊子」として『文芸時代』一月号から二月号に発表します。翌年三月には、短編集「伊豆の踊子」が金星堂から刊行されました。

川端康成は、たいへん伊豆の温泉を愛し、この最初の伊豆への旅以来、一〇年間にわたり毎年伊豆を訪れ、滞在中見聞した伊豆の自然や人情を主題に、「春景色」、「温泉宿」など数多くの作品を書いています。

日本で最初のノーベル文学賞受賞作家川端康成の誕生も伊豆と深くかかわっていると言えます。

静岡県では、伊豆と文学の関わりに着目して、この秋から、伊豆文学フェスティバルを開催いたします。

（静岡県教育委員会文化課主席指導主事 山本昇平）

特集 専修学校20年

巻頭言 ● 6 専修学校の役割と今後の課題・河野重男

座談会 ● 8 近年における専修学校の発展と今後の展望
・出席者 大森 厚／戸田修三／永井順國／安田忠治／小野紘昭・司巻 高 為重

論文 ● 20 二〇年の歩みから——専修学校の特徴を考える・倉内史郎

エッセイ ● 24 専修学校二〇年を振り返って・大沼 淳

● 26 歌は心・佐々木千賀

事例紹介① ● 28 専門学校と大学・短期大学との連携・広島工業大学専門学校

事例紹介② ● 30 専修学校におけるマルチメディア教育・日本電子専門学校

事例紹介③ ● 32 専修学校における国際ボランティアの養成
——理論と実践力を合わせ持つ国際ボランティアの育成
・大阪YWCA専門学校

事例紹介④ ● 34 園芸業界とリフレクシユ教育・テクノ・ホルティ園芸専門学校

事例紹介⑤ ● 36 専修学校における留学生受け入れ・東洋美術学校

事例紹介⑥ ● 38 高等専修学校の実践紹介・大和商業高等専修学校

体験記 ● 40 兵庫県南部地震における学生の活動
——地域活動から得たもの・佐野光世

解説 ● 44 専修学校の発展と振興策について
・生涯学習局生涯学習振興課専修学校教育振興室

特別記事 放送大学の全国化

● 48 放送大学の全国化・生涯学習局生涯学習振興課

● 53 放送大学の概要

カラー

1 いまじい季節性ある日の学校訪問記
・若美町立若美幼稚園(秋田県)

4 天然記念物時記
・月山(山形県)

表2 名作シリーズ・矢田地蔵縁起

表3 文化財紹介・御手洗

56 人・この道・園部 澄

57 教育・文化と地域づくり④・北海道幕別町

60 焦点—文教施策

63 霞が関トビックス

64 中教審ニュース

66 私の本棚から・小畑修一

67 鑑賞席・生涯一〇〇年記念
里見勝蔵展

68 都道府県祭—教育・学術・文化ニュース
・宮城県・新潟県・滋賀県・福岡県

70 こんにははにつぼん・ベス・ヒギンズ

72 '96アトランター我が国競技スポーツの最前線
・自転車競技

74 科学はいま—理系へのいま

77 刊行物紹介
・東京大学地震研究所

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
・国立信州高遠少年自然の家

80 海外教育ニュース

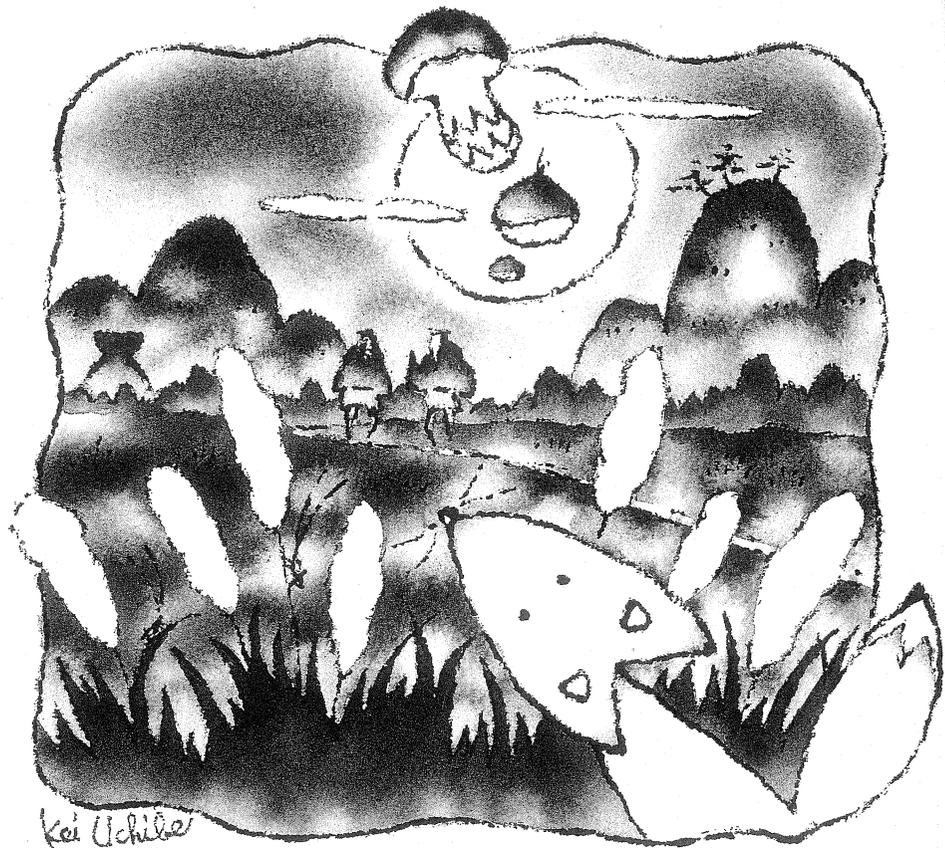
82 文学のふさとこころをつね

84 編集後記

新美南吉

ごんぎつね

月のいばんでした。ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。
 中山様のおしろの下を通過して、少し行くと、
 細い道の向こうから、だれか来るようです。話し声が聞こえます。
 チンチロリン、チンチロリンと、松虫が鳴いています。
 ごんは、道のかた側にかくれて、じっとしていました。
 話し声は、だんだん近くなりました。
 それは、兵十と、加助かすけというお百姓でした。
 「そうそう、なあ、加助。」と、兵十が言いました。
 「ああん。」
 「おれあ、このごろ、とても不思議なことがあるんだ。」
 「何が。」
 「おつかあが死んでからは、だれだか知らんが、
 おれにくりや松たけなんかを、毎日毎日くれるんだよ。」
 「ふうん、だれが。」
 「それが分からのだよ。おれの知らんうちに置いていくんだ。」
 ごんは、二人の後をつけていきました。



イラスト：内部敬生



「冬ばれや大丸煎餅屋根に干す」の碑(南吉生家のすぐ前にある碑)

の思いを大切にしながら読み浸ります。
 童話作家、新美南吉は、大正二年(一九一三)、現在の愛知県半田市岩清中町で生まれました。二九歳七か月の短い生涯でしたが、郷土・半田を舞台にした、心温まる作品を数多く残しています。
 「南吉童話が愛されるのは、作品にユーモアと物語性があること、郷土のこぼや風習が生きていて物語の中に自分を同化できること、人が生きていく上で信頼の大切さを考えさせてくれることなどによる」(半田市教育委員会『半田を知る』から)と語られています。
 平成六年には、中山城跡に、半田市民共通の願いであった、童話の森「新美南吉記念館」がオープンしました。なお、本年一〇月には、国語教育全国大会が開催される予定で、その大会の副題も「新美南吉」の作品をめぐって」となっています。
 彼岸花の咲き乱れる「ごんぎつね」の里は、子供たちの心のふるさととして、詩情豊かな心をはぐくみ続けてくれるのです。

(愛知県教育委員会義務教育課指導主事 河合昌和)



「新美南吉生い立ちの地」の碑と生家

新美南吉の作品「ごんぎつね」は、現在、小学校四年生の国語の教科書教材として、各社に採用されています。一人ぼっちで、いたずら好きの「ごん」の変容していく姿を、子供たちは読み深めているのです。
 「火なわじゅう」で撃たれる、悲劇的な場面では「兵十がごんの優しさに気づいていけば、ごんは撃たれなくてすんだのに」と、涙を浮かべる子も出てきます。子供たちは、理解されることの喜び、生きる悲しみなど、自分

特集 生涯学習施策の新たな展開

巻頭言 8 生涯学習の道 三浦朱門

座談会 10 生涯学習社会の構築に

向けて

(出席者) 高橋牧人 / 岩崎伸夫 / 有路 信 / 今井伸治 / 河 幹夫 / (司会) 寺脇 研

解説 22 生涯学習施策一〇年の歩み 生涯学習局生涯学習振興課

事例紹介 31 地方公共団体と生涯学習 東京都生涯学習センター / 広島県教育委員会 / 神奈川県教育委員会

34 民間団体と企業と生涯学習

東日本旅客鉄道株式会社 / 社団法人日本編物文化協会 / 朝日カルチャーセンター / ヤマハ株式会社 / 財団法人出版文化産業振興財団 / 経済団体連合会

体験記 41 生涯学習社会の夜明け(第一回生涯学習フェスティバル) 西村 憲

43 全国生涯学習フェスティバルに参加した民間の企業・団体等

Q & A 45 生涯学習振興施策Q & A

解説 48 「子どもと話そう」全国キャンペーンの実施状況 生涯学習局生涯学習振興課

特別記事 生命科学の進展と社会との調和

50 論文●生命科学の進展に伴う新たな社会問題 豊島久真男

52 ●医系大学における教育・研究・診療と医の倫理―高久史磨

54 ●ユネスコ「ヒトゲノムと人権に関する世界宣言」の採択と国際社会 位田隆一

56 解説●学術国際局研究助成課 / 科学技術庁研究開発局フロンサイエンス課

カラー

- 1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて 横浜市大佛次郎記念館(神奈川県)
- 4 天然記念物歳時記 上野檜原のシオジ林
- 表2 名作シリーズ 陽を浴びるポプラ並木
- 表3 文化財紹介 平戸のジャンガラ

6 私と教育、私としげ 小平桂子アネット

58 中都府県発 小平桂子アネット
●教育・学術・文化・スポーツニュース
栃木県、島根県出雲市、長崎県佐々町、鹿児島県

70 科学はいま 東京大学海洋研究所
72 現代スポーツあれこれ ビーチバレー

74 行ってみよう やってみよう 国立中央青年の家

76 海外教育ニュース 潮騒

78 文学のふもと 潮騒

80 インフォメーション 大迫さかゑ

81 私の選んだ一冊

82 鑑賞席

84 編集後記

潮騒

三島由紀夫

今にして新治は思うのであった。あのような辛苦に
もかわらず、結局一つの道徳の中でかれらは自由で
あり、神々の加護は一度でもかれらの身を離れたため
しはなかったことを。つまり闇に包まれてこの小
さな島が、かれらの幸福を守り、かれらの恋を成就さ
せてくれたということ。……

突然、初江が新治のほうを向いて笑うと、袂から小
さな挑いろの貝殻を出して、彼に示した。

「これ、覚えとる？」
「覚えとる」

若者は美しい歯をあらわして微笑した。それから自
分のシャツの胸のかくしから、小さな初江の写真を出
して、許嫁に示した。

初江はそっと自分の写真に手をふれて、男に返した。
少女の目には矜りがうかんだ。自分の写真が新治を
守ったと考えたのである。しかしそのとき若者は眉を
聳やかした。彼はあの冒険を切り抜けたのが自分の力
であることを知っていた。

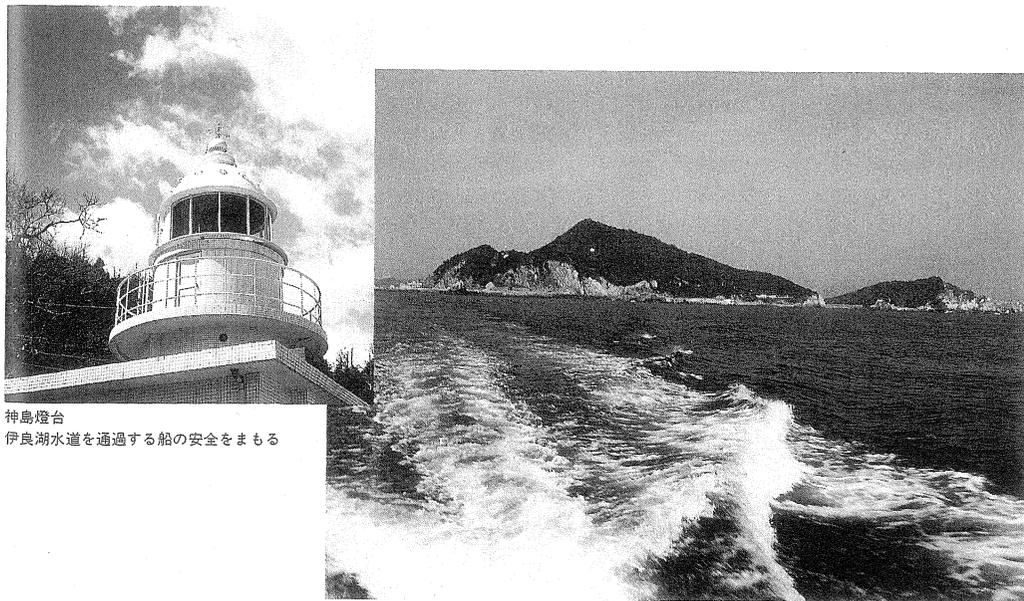
(出典『潮騒』新潮文庫 新潮社)



港のあちこちに積み
た罫「年間漁獲高の
八割は罫であった」と
記される



ロマンの舞台となった旧陸軍の観的哨の廃墟



神島燈台
伊良湖水道を通る船の安全をまもる

「歌島(神島)は人口千四百、周囲一里に充たない小島である。」

『潮騒』は、三島由紀夫が伊勢湾口の島「神島」を
舞台にして、漁師の子新治と海女の初江の純愛を描
いた美しい青春物語です。昭和二十九年六月に出版さ
れると、たちまちベストセラーとなり、すぐに映画
化され、同年二月には第一回新潮社文学賞を受賞
しています。

三島は『潮騒』執筆にあたり、この前年、昭和二
八年三月と八月の二回、取材のため神島を訪れ、一
か月近く滞在しました。その当時の三島の思い出を、
当時雑貨商を営んでいた大羽悦子さん(大正一五年
生まれ)は懐かしそうに語ってくれました。

「夕方になるといつも二〇分ほど店先に立ち、買
物にきた島の人々の言葉を熱心にメモしていました。
生まれて数か月の私の次男が泣き出すと、三島さん
は、抱きます。抱きます。抱きます。抱きます。抱きま
した。それはそれは優しい人でした。」

新治と初江が焚き火を間に裸で向き合った観的
哨。敬虔な祈りを捧げた八代神社。もっとも美しい
と記された神島燈台からの眺めをはじめとして、小
説に描かれた場所も、純朴な島の人々の人情と生活
も、篤い信仰と島の民俗も今もそのままに残ってい
て、この島を訪れる私たちは『潮騒』の世界をたど
ることが出来ます。

三島は、『潮騒』に「日本の神と人のものがたり」
を復活させました。幾多の苦難と神々の加護による
恋の成就の物語。三島はこの島に生活して島の人々
の心にふれ、確信を持ってこの作品を描いたのでし
ょう。

(三重県立図書館企画調整グループ主催 青山泰樹)

特集 大学改革と点検・評価

巻頭言 ● 8 大学改革の自律的進展を目指して ◇ 原田康夫

座談会 ● 10 大学が社会に果たすべき責任

と自己点検・評価の役割

◇出席者 木村 孟／麻生 誠／猪口邦子／◇司会 高 尚重

評論 ● 22 社会の接点として点検・評価に

何が求められるのか ◇ 中津井 泉

エッセイ ● 26 「形の喪失」と大学教育の将来 ◇ 大森 彌

事例紹介 ① ● 28 「名古屋大学懇話会」の活動 ◇ 名古屋大学

事例紹介 ② ● 30 東京大学文学部における「外部評価」 ◇ 東京大学文学部

事例紹介 ③ ● 32 全学規模で行われた第三者評価

東京工業大学の自己点検・自己評価・外部評価の例 ◇ 東京工業大学

事例紹介 ④ ● 35 活用されている学生の授業評価 ◇ 国際大学

解説 1 ● 38 自己点検・評価の全般的傾向について

(外部評価も含む) ◇ 高等教育局大学課 大学改革推進室

解説 2 ● 42 大学審議会の審議状況について ◇ 高等教育局企画課

解説 3 ● 47 「大学の教員等の任期に関する法律」について

◇ 高等教育局企画課

特別記事 都道府県生涯学習情報提供システムの高度化の推進

● 50 流れを見る 目 ◇ 時岡慎一郎

● 52 都道府県生涯学習情報提供システムの

高度化の推進と方策 ◇ 平沢 茂／清原慶子

● 58 複数の提供手段を活用した

生涯学習情報提供システム ◇ 鳥根県立生涯学習推進センター

1 ある日の学校訪問記

◇ 山形県立上山明新館高等学校

(山形県)

4 天然記念物歳時記

◇ 歌津館崎の魚竜化石産地

および魚竜化石(宮城県歌津町)

表2 名作シリーズ ◇ 虹を見る

表3 文化財紹介 ◇ 和歌体十種

6 であいふれあい ◇ 小川誠子

62 焦点—文教施策

68 お知らせ

69 鑑賞席 ◇ アルフレッド・ステイグリツ

ツと野島康三

◇ 民博開館20周年記念特別展

異文化へのまなざし

大英博物館「レクシミン」にさへめ

70 家庭教育のための取組

◇ 家庭教育への理解を深めるために

72 都道府県発—教育・学術文化ふろしゅうエス

◇ 山形県羽黒町 ◇ 三重県 ◇ 大阪府

◇ 愛媛県

74 どのような講座こんな講座 大学の公開講座から

◇ 千葉大学 ◇ 神戸大学

76 科学はいま

◇ 都市直下の地震による災害の防止と軽減

内陸の活動層の震威

78 行ってみようやってみよう

◇ 国立大洲青年の家

80 海外教育ニュース

82 文学のふもとと琵琶湖周航の歌

84 編集後記

琵琶湖周航の歌

作詞 小口太郎

一 われは湖の子さすらひの
旅にしあればしみじみと
昇る狭霧やさぎなみの
志賀の都よいざさらば

二

松は緑に砂白き
雄松が里の乙女子は
赤い椿の森陰に
はかない戀に泣くとかや

三

波のまにまに漂へば
赤い泊火なつかしみ
行方定めぬ浪枕
今日は今津か長濱か

四

瑠璃の花園珊瑚の宮
古い傳への竹生島
佛の御手にいだかれて
ねむれ乙女子やすらけく

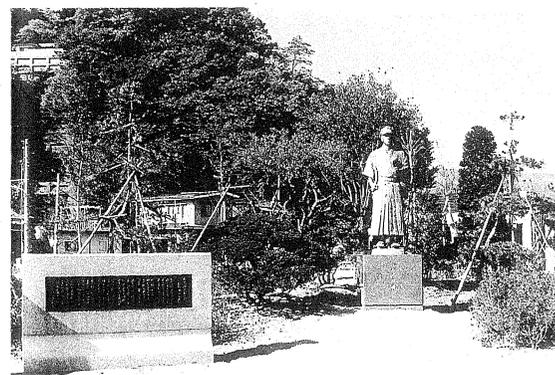
五

矢の根は深く埋もれて
夏草しげき堀のあと
古城にひとり佇めば
比良も伊吹も夢のごと

六

西國十番長命寺
汚れの現世遠くきりて
黄金の波にいざこが
語れ我が友熱き心

(出典「小口太郎 生涯九〇周年記念誌」)



岡谷市諏訪湖畔の公園に設置された顕彰碑と立像



小口太郎のコース
(周航の歌コース)

大正6年(3泊4日)

大津—雄松(泊)—今津(泊)
—竹生島—長浜(昼食)
—彦根(泊)—長命寺(昼食)
—大津

「琵琶湖周航の歌」の作詞者小口太郎は、明治三〇年長野県諏訪郡淡村(現岡谷市)に生まれ、第三高等学校(現京都大学)、東京帝国大学(現東京大学)と学び、同大学での研究所生活の後、大正一三年二六歳の若さで短い生涯を閉じた。

小さな頃から音楽や運動に親しみ、特許を取るなど多才であった太郎は、大正六年の琵琶湖周航の途上、その情景を詞に書きとめました。それを今津の宿で仲間の一人が「小口がこんな歌をつくった」と皆に見せたところ、当時流行していた「ひつじ草」の曲によく合うので皆喜んで合唱したといいます。

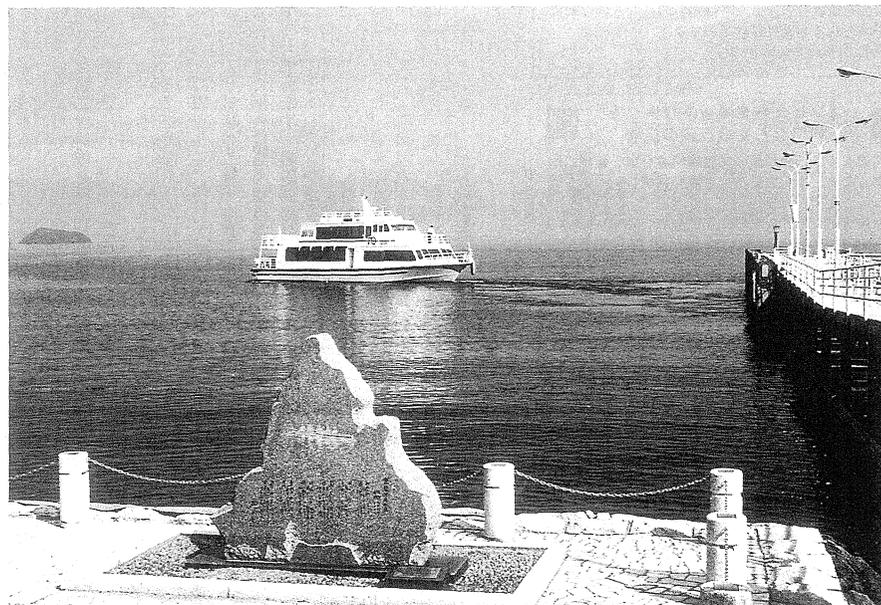
故郷を離れ生活する太郎の心の中には、琵琶湖に信州の諏訪湖の面影が重なっていたものと思われれます。弟の秀雄のメモにもそのことが記されています。

「心ノヤサイイ兄ハ家族ニモ話サナカッタ胸ノ内ノ故郷ノ思イノ一片ヲ、琵琶湖周航ノ歌ノ心ニ記シタノデハナカッタカ、ソナチモシマス。」と。

若くして世を去った太郎の想いは、いつしか三高の寮歌として、また国民的な歌謡として人々に愛唱され、八〇年を経た今日も琵琶湖の風情とともに生き続けています。

今では小口太郎が泊まった宿も定かではありませんが、近くの今津港横の親水公園には平成六年に歌碑が建立され、太郎の想いの彫り刻まれた歌詞が穏やかな湖面とともに当時を物語っています。

(今津町教育委員会参事 沢田佐次郎)



歌碑のある親水公園

今津港では琵琶湖遊覧船が発着し、桟橋先端には「赤い泊火」がある

特集 教員の国際交流・協力

巻頭言 ● 8 トルコから——教員の国際理解・協力への期待 ◇ 遠山敦子

座談会 ● 10 教員の海外体験と国際理解
◇〈出席者〉坂下英吾／石橋弘光／ヒュー・F・オリフアント／
内海成治 ◇〈司会〉吉尾啓介

論文 ● 20 今後の教員の
国際交流・協力の在り方 ◇ 佐藤郡衛

エッセイ ● 24 異文化は教師 ◇ ショアン・リビンググストン

特色ある事業 ● 26 フルブライト・メモリアル基金米国教員等
受入事業——動き始めた日米初等中等教育教員の交流
◇ 学術国際局国際企画課教育文化交流室

● 30 アメリカから二〇名の教員を迎えて
◇ 岐阜県教育委員会

● 32 はじめましてNIPPON！◇ キャッシー・スパイサー
● 34 一つの目標へ向けた二つの方法
◇ ヒッキー・ガデッキン／スーザン・ハウレイ

● 36 外国教育施設日本語指導教員派遣事業
(REXプログラム)について
◇ 学術国際局国際企画課

● 38 英国・ウエールズで教えて、学んで ◇ 川口雅子
● 40 青年海外協力隊の事業概要
◇ 学術国際局国際企画課教育文化交流室

● 42 私にできること ◇ 田川昌子

解説 ● 44 教員の国際交流・国際協力に関する諸事業について
◇ 学術国際局国際企画課教育文化交流室

カラー
1 ある日の学校訪問記
◇ 伊勢市立厚生小学校(三重県)
4 天然記念物歳時記
◇ 高崎山のサル生息地(大分県)
表2 名作シリーズ ◇ 東寺の縁日
表3 文化財紹介
◇ 徳島藩御召鯨船千山丸

6 であいふれあい ◇ 諏訪内晶子
46 焦点——文教施設
53 刊行物紹介・お知らせ
54 中教審ニュース
64 家庭教育のための取組
◇ 家庭教育への理解を深めるために
都道府県発——教育・学術文化・スポーツニュース
◇ 岩手県北上市 ◇ 埼玉県
◇ 群馬県吉井町 ◇ 大分県
68 どんな講座？ どんな講座——大学の公開講座から
◇ 筑波技術短期大学 ◇ 城西国際大学
70 現代スポーツあれこれ
◇ 長野オリンピックと環境保全
72 科学はいま
◇ 遺伝子の傷を治すしくみ
74 行ってみようやってみよう
◇ 国立吉備少年自然の家
76 海外教育ニュース
78 文学のふもと ◇ 源氏物語——宇治十帖
80 鑑賞席 ◇ 平成一〇年初春歌舞伎公演
◇ 新国立劇場開場記念公演
現代舞踊「ハノマ」展
82 お知らせ
84 編集後記

源氏物語 — 宇治十帖

紫式部

浮舟

宮(勾宮)は姫君(浮舟)を抱いて外へお出になり、山莊の人が危なかしいものであると毎日眺めていた小舟へお乗せになった。舟が岸を離れた時には、はるかな知らぬ世界へ伴って行かれる気がした姫君が、心細きに堅くお胸へすがっているのも宮は可憐に思召された。有明の月が澄んで空にかかり、水面も曇りなく明るかった。舟人が「これが橋の小島でございます」と言い、舟のしばらくとどめた所をご覧になると、大きな岩のように常磐木の繁茂した島が影をつくっていた。

「ご覧なさい。川の中にあつてはかなくは見えますが、千年の命ある緑が深いではありませんか」とお言いになり、

年経とも変らんものか橋の
小島の崎に契るころは

とお告げになった。姫君も珍しい楽しい道のような気がして、

橋の小島の色も変らしを

この浮舟ぞゆくへ知られぬ

こんな返事をした。美しい月と恋人の艶な姿が添って、宇治川にもこんな趣があつたかと宮は恍惚としておいでになった。

(写謝野鶴子訳「源氏物語」による)



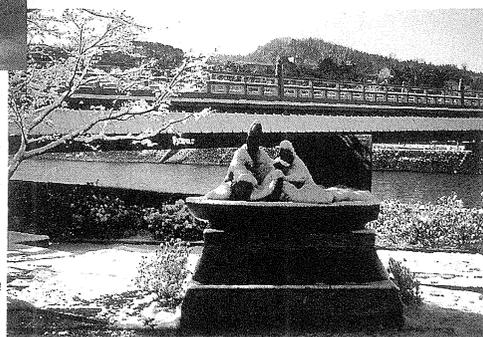
平等院鳳凰堂

源氏物語は平安時代、西暦一〇〇〇年ごろに書かれた五十四帖からなる一大長編小説です。宮廷内外を舞台とする華麗な物語ですが、内容的には大きく三部に分けることができます。第一部は、光源氏の誕生から栄華を極めるまでの雅やかな世界、第二部は、そんな光源氏の上にも暗い影が射しはじめ、苦悩の内に生涯を終えようとする姿が描かれています。そして第三部は、光源氏の死後、彼の子や孫に当たる世代の、かなわぬ恋の物語です。特に最後の十帖は、宇治の地が主な舞台となっていることから世に「宇治十帖」と呼ばれています。

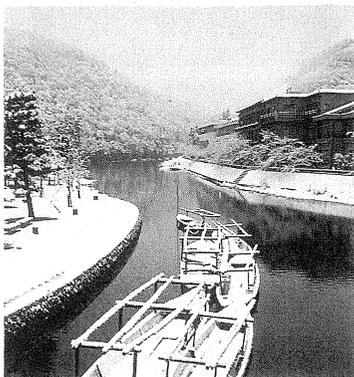
作者は紫式部。全部が彼女の作かどうかは議論もありますが、物語全体に流れる繊細な心理描写は見事という



早期の朝霧橋
朝霧は冬の宇治川の風物詩



宇治十帖モニュメント
点在する「宇治十帖古跡」を象徴するものとして平成7年に宇治市が設置。朱塗りの朝霧橋を背景に、勾宮が浮舟を抱いて舟に乗せるところを表している。



宇治川塔の島の風景

ほかありません。一〇〇〇年を経て、なお最高傑作と賞賛されること、何人もの作家が現代語訳に挑戦し、幾多の研究者によって論文が送り出され続けていることも、ただ驚くばかりです。

宇治市の中央を流れる宇治川の周辺には、「宇治十帖の古跡」と呼ばれる石仏や石碑、祠などが一〇か所置かれていて、平等院や宇治上神社など我が国が世界に誇る文化財や美しい自然景観の中を、物語に思いを馳せながら巡り歩けるコースが整備されています。春の陽を待つて、ぜひ一度歩いて御覧になってください。

(宇治市市民部次長 堀井健一)

特集 総合学科——高等学校教育の新たな展開

巻頭言 ● 6 創造的な人材育成のために・豊田章一郎

座談会 ● 8 **総合学科への期待**——出席者 北澤誠士／天野郁夫／坂内和子／櫻井修・岡本木曾功

論文 ● 18 **総合学科に期待する**・山極 隆

● 20 **総合学科の正しい理解を**・野原 明

エッセイ ● 22 **我が高校生活**・笛吹雅子

事例紹介 ● 24 **歩きながら考える**

——本校総合学科一年の足跡・岩手県立岩谷館高等学校

● 27 **授業実践「産業社会と人間」の取組**・三重県立本高等学校

● 30 **生き生きとした学びのびと 自由学び**——総合科学科を開設して・筑波大学附属坂戸高等学校

● 33 **「走りながら考える」のびと**——総合学科の授業展開について・和歌山県立和歌山高等学校

● 36 **全国初のミニ総合学科は**・鳥根県教育委員会

体験記 ● 39 **少しづつ見えてきた「総合学科」**

——「よきよき」を学ぶ私生活について・和地麻実

● 42 **総合学科「二年間学んぶ」**・飯島大和

解説 ● 44 **総合学科について**・初等中等教育局職業教育課

カラー

1 いま、個性ある日の学校訪問記

● 岡山県立岡山城東高等学校(岡山県)

4 天然記念物歳時記

● 標津湖原(北海道)

表2 名作シリーズ・法華経曼荼羅

表3 文化財紹介・大森及び周辺地域の

海苔生産用具

50 人・この道・後藤正一

51 教育・文化と地域づくり ● 秋田県能代市

54 中教審ニュース

56 焦点—文教施策

66 私の本棚から・山口 眞

67 鑑賞席・応挙展

68 都道府県発—教育・学術・文化ニュース

● 岩手県・山梨県・和歌山県・宮崎県

70 こんなにはじつぽん

● フンジャ・モセス・ムトウリ

72 '96アトランター我が国開発スボットの最新録

● コット

74 科学は「いま」理系へのいざない

● 北海道大学電子科学研究所

77 刊行物紹介

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

● 岐阜県谷汲村教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふるさと・みだれ髪

84 編集後記

『みだれ髪』と与謝野晶子

その子二十

その子二十擲にながるる黒髪の

おごりの春のうつくしきかな

なにとなく君に待たるるこちして

出でし花野の夕月夜かな

人とわれおなじ十九のおもかげを

うつせし水よ石津川の流れ



石津川風景。橋の向こうにチンチン電車が走る

晶子は大坂堺の菓子商駿河屋に生まれた。明治十一年（一八七八）のことである。海こひし潮の遠鳴りかぞえつ、少女となりし父母の家」の歌碑は、その生家跡にある。

堺女学校（現在の大阪府立泉陽高等学校の前身）を卒業後、与謝野鉄幹の新詩社社友となり、雑誌『明星』に短歌を投稿。以後めざましい活躍をした。封建的桎梏の厳しい中で、大胆に恋愛を賛美し、女性としての新しい生き方を求めた。その歌いぶりは、極めて挑戦的であった。この激しい情熱の奔騰は、短歌の近代化の道を切り開き、浪漫主義を代表する『みだれ髪』を生み出した。集中の三九九首で最も多用されている語は、「われ」、「わが」のたぐいで、合計七六首に及んでいる。

取り上げた最初の歌は、晶子が鉄幹と出会う縁となった河野鉄南ゆかりの覚応寺の歌碑に刻まれている。覚応寺は、晶子が通った堺女学校から歩いて五、六分の所、戦災を免れて堺の昔の面影を色濃く残した寺の多い一角にある。晶子の深

い理解者であった佐藤春夫は、この歌を「屈指の秀歌」と褒めている。高校の「国語」の教科書二六種の中で一七の教科書がこの歌を収めている。次の「なにとなく」の歌は、淡彩画風にロマンティックな雰囲気美しく表現している。晶子は後になって、『みだれ髪』の歌を否定したが、そうした中で晶子がただ一首選び残したのがこの歌である。三番目の歌の石津川とは、堺市を流れ大阪湾に注ぐ川である。

晶子は鉄幹を助け、また一人の子供を育てながら、評論や教育の分野でも活躍した。従前のいわゆる「良妻賢母型」女性教育よりも女性の持つ豊かな才能を伸ばす方向に力を注いだことでも当時としては異色であった。

五月二十九日の晶子の命日「白桜忌」の集い、「晶子リサイタル」の催し、平成六年に開設された「晶子ギャラリー」、そして「晶子記念館」建設の予定と様々な活動の中に、今も晶子が生きている。

大阪府教育センター 秋田典昭
教科教育部長



詩碑のある晶子の母校
大阪府立泉陽高等学校

特集 地域における生涯学習機会の充実について

巻頭言 ● 8 学社融合の考え方 ◆ 伊藤正吉

座談会 ● 10 様々な機関・施設における生涯学習機会の提供について

◆ 出席者 木村 孟 / 大野 忠 / 宮操一 / 鈴木敏恵 ◆ 司会 北村幸久

論文 ● 20 創造的な人材の育成に向けて ◆ 和田龍幸

● 24 「新しい風」はどこまで広がったか ◆ 永井順國

エッセイ ● 28 卒業生の戻れる場所 ◆ 服部幸應

事例紹介① ● 30 生涯学習時代と大学博物館 ◆ 東京大学総合研究博物館

事例紹介② ● 33 ミニ大学院アフターファイブコース ◆ 豊橋技術科学大学

事例紹介③ ● 36 「開かれた学校」を家庭・地域・学校の連携で…
市川市コミュニティスクール ◆ 千葉県市川市教育委員会

事例紹介④ ● 39 生涯学習を支援する教育ボランティア活動
◆ 国立科学博物館

事例紹介⑤ ● 42 宇宙学校 ―開かれた研究所を目指して◆ 宇宙科学研究所

解説 ● 44 最近の生涯学習審議会の動きについて
◆ 生涯学習局生涯学習振興課・社会教育課

特別記事 いじめの問題に関する総合的な取組について

● 52 いじめ問題の解決に向けて

一人一人が行動するとき

「児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議」報告

◆ 初等中等教育局中学校課

行 ある日の学校訪問記

◆ 駒ヶ根市立赤穂南小学校 (長野県)

4 天然記念物歳時記「花ごよみ

◆ 赤井谷地沼野植物群落 (福島県)

表2 名作シリーズ ◆ 麗子肖像
(麗子五歳之像)

表3 文化財紹介
◆ 上中町熊川宿 (福井県)

カラー

6 鑑賞席
◆ フロシエクト・フォー・サバイバル
生存への意志

60 焦点 ― 文教施策

65 お知らせ

67 どんな講座こんな講座 ― 大学の公開講座から

◆ 富山医科薬科大学

68 ポイント生涯学習
◆ 電子博物館プロジェクトの推進

70 科学は、まー理工系へのいざない

◆ 京都大学超高層電波研究センター

73 都道府県発 ― 教育・学術・文化・スポーツニュース
◆ 岩手県 ◆ 神奈川県 ◆ 富山県
◆ 滋賀県 ◆ 兵庫県

76 現代スポーツあれこれ
◆ スポーツサイエンスの時代

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド
◆ 島根県海士町教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふもと ◆ 城の崎にて

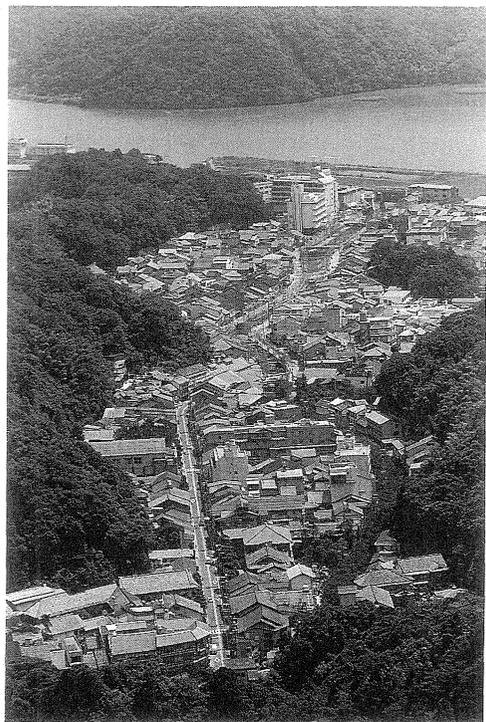
84 編集後記

城の崎にて

志賀直哉

ある朝のこと、自分は一匹の蜂が玄関の屋根で死んでいるのを見つけた。足を腹の下にびったりとつけ、触角はだらしなく顔へたれ下がっていた。ほかの蜂はいっこうに冷淡だった。巣の出はいりに忙しくそのわきをはい

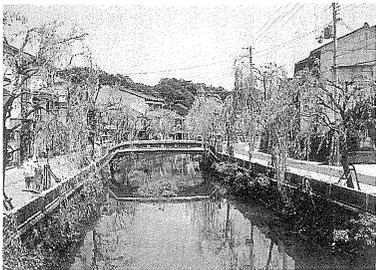
まわるが全く拘泥する様子ではなかった。忙しく立ち働いている蜂はいかにも生きている物という感じを与えた。そのわきに一匹、朝も昼も夕も、見るたびに一つ所に全く動かさずに向きどころがっているのを見ると、それがまたいかに死んだものという感じを与えるのだ。それは三日ほどそのままになっていた。それは見えて、いかにも静かな感じを与えた。寂しかった。ほかの蜂がみんな巣へはいってしまった日暮れ、冷たい瓦の上の一つ残った死骸を見る事は寂しかった。しかし、それはいかにも静かだった。



城崎温泉全景 町の向こうを流れるのは円山川、町中を流れる大鷲川が注ぎ込んでいる



志賀直哉が投宿した旅館「三木屋」



町の中を流れる大鷲川とその両側に建ちならぶ旅館街

城崎は、兵庫県北東部、円山川沿いに古くから開けた温泉町である。日露戦争の傷病兵療養所として有名になった。『小説の神様』として有名な志賀直哉が人に勧められてこの地に赴いたのが大正二年。東京での電車事故のあと養生の目的で来たこの湯治で、志賀直哉は、作品にとって欠くことのできない情景を心に焼きつけることになった。

短編小説『城の崎にて』は、高等学校の国語の教科書にも出てくる作品で、そこには蜂・ねずみ・もりといった小動物の死が描かれる。独特の簡潔な文章が、城崎という土地の持つ情緒とあいまって、読む者に生と死の鮮明なイメージを喚起し、言い知れぬ感慨を抱かせる。

例えば、生き生きと活動的に動き回る蜂と死んでじっと動かない蜂、水から上がって石の上でじっとしていたもりと、しっぽをさらしながらあつとという間に死の世界に遠ざかってしまったもり、それぞれ生と死は、鏡のこちらと向こうのように、明確な輪郭を持って描かれながら、全くの別世界であることを読む者にはつきりと悟らせる。

ある志賀直哉論によれば、城崎へ行く前の三日間、志賀直哉は不眠不休で遊んでいたと言えるような状態であったらしい。もしそうだとすれば、そうした城崎での湯治が、三年余の歳月を経て、どうしてこのような作品として結実するのか。作家と作品との不思議な関係を考えながら、ゆかた姿の湯治客に混じって名物の外湯めぐりをするのも、城崎という土地ならではの楽しみである。

(兵庫県教育委員会高校教育課指導主事 溝口繁美)

CONTENTS

特集 中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申

巻頭言 8 心の教育の充実を目指して——有馬朗人

答申について 10 「幼児期からの心の教育の在り方について」の答申に当たって——根本二郎

11 中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申
（新しい時代を拓く心を育てるために）
——次世代を育てる心を失う危機——について——大臣官房政策課

座談会 16 心の教育の充実を目指して

エッセイ 28 忙しすぎる子どもたち——出席者 木村 孟／西東桂子／永井順國／山田 穰／司多高 為重 衣笠祥雄

論文 30 現代日本の父親——河合隼雄

34 子どもたちの荒れと日米の教育——恒吉僚子

38 今日、子育て事情——島内行夫

事例紹介① 42 なぜいま子ども電話なのか——牟田悌三

事例紹介② 44 青少年の自然体験プログラム——佐藤初雄

事例紹介③ 46 心を込めて積み重ねる人と自然との触れ合い——佐保田巨正

事例紹介④ 48 生きる力を支える豊かな心の育成——仙台市立将監中学校

解説 50 中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申
関連施策の概要——大臣官房政策課

カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて——丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川県）

4 天然記念物歳時記——黒部峡谷附猿飛ならびに奥鐘山

表2 名作シリーズ——花と果物、ワイン容れのある静物

表3 文化財紹介——三ツライ堂

6 私と教育、私としつけ——アントン・ウィツキ

52 焦点 文教施策——中教審ニュース

69 私の選んだ一冊——鈴木敏恵

70 都道府県発——教育・学術・文化・スポーツニュース——青森県、群馬県、滋賀県、高知県中村市

72 現代スポーツあれこれ——ネイチャーゲーム

74 行ってみよう やってみよう——国立妙高少年自然の家

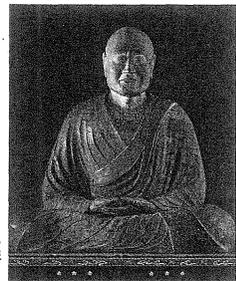
76 海外教育ニュース——天平の叢

80 文学のふるさと——インフォメーション

82 鑑賞席——編集後記

天平の覺

井上 靖



鑑真和上坐像
(唐招提寺)

暁方、普照は眠りから覚め、初めて盲いた師鑿真の顔を見た。鑿真は眠っているのかいないのか、船縁に背をもたせるようにして、少し顔を仰向けて坐っていた。普照は三年の歳月が和上の顔を老いたものにして、少し顔を仰向けて坐っていたが、鑿真は寧ろ若々しい顔になっていた。両眼は明を失っていたが、そこには少しも暗いじめじめしたものはなかった。かつての鑿真の持っていた烈しい古武士的なものはもう少し落ち着いた形のものになり、六十六歳の鑿真の顔は静かな明るいものになっていた。

鑿真は突然、そこから三間ほど離れていた普照の方へ顔を向けた。正面から見ると、穏やかではあったが、やはり鑿真独特の意志的な顔であった。

「照よ、よく眠れたか」

鑿真は言った。

「ただいま眼を覚めました。お判りになりましたか」

普照が驚いて言う。

「盲いているので判るはずはない。先刻から何回か無駄に声をかけていたのだ」

そう言って鑿真は笑った。普照は笑わなかった。早暁の冷たい江上の風に顔を向けたまま、普照は涙を頬に伝わるに任せた。一声の鳴咽をもらさなかったが、

「照は泣いているのか」

と、鑿真は訊いた。

「泣いてはおりませぬ」

普照は答えた。他の僧侶たちも間もなく眼を覚ました。思託は曾ての青年僧の佛は全く消え、体軀も堂々として落着きができ、もはやどこから見ても鑿真門の高僧の一人といった貫禄を具えていた。法載、曇静も放浪時代とは違って見違えるほどの健康体になっていた。普照にはこうした唐僧たちを見るにつけても、一緒に何年も流離の生活を送った栄叡と祥彦の姿がここにはないことが令吏のように淋しく思われた。

(出典「天平の覺」新潮文庫)



▲日本で「最初の結界浄潔の地」と紹介される東大寺・戒壇院



門前の石段より戒壇院を臨む

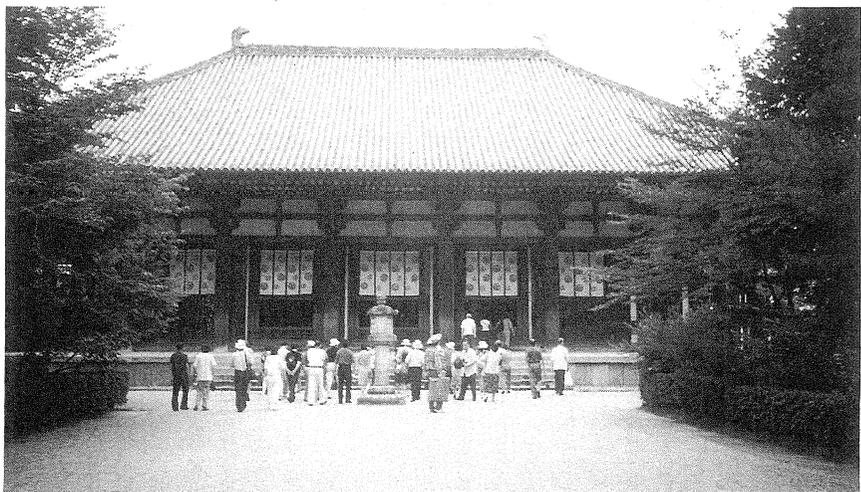
鑑真（鑿真）がその生涯を閉じた唐招提寺は平城宮跡の西南に位置する。寺の中心をなす金堂は重厚な屋根とその棟の両側に配された鴟尾、そして八本の柱の列は訪れる者に印象深い。特に全面に配されたこの八本の柱は、中央部に膨らみをもたせたエンタシス様式で、その柔らかな曲線は、ここで仏道に励んだ鑑真和上の人柄をも偲ばせてくれるようだ。作者井上靖もこの御堂に強い刺激を受けたであろう。「天平の覺」は主人公の普照が唐の国から贈られた鴟尾を、この金堂に寄進するところで締めくくられている。

西暦七〇〇年頃の日本は、仏教が伝来され多くの寺院が建立されたが、仏教修行上重要とされる戒律はいまだ施行されていなかった。鑑真和上は伝戒の師僧として渡日を決意する。祖国において名僧であった和上が、なぜ生命の危険をも顧みず渡日を決意したのか。作者は和上に多弁を求めず、寡黙により、かえって教義に対する純粋な気持ちを表しているようだ。

鑑真が一二年間の苦難の末、ようやく日本にたどり着き、その目的である授戒を行われたのが東大寺の戒壇院である。作中、作者は事実だけを淡々と記しているが、既に視力を失った和上の心象に、仏教を伝えた日本はどのように映し出されていたのだろうか。現在の戒壇院は江戸時代の再建で創建当時の面影はなく、ひっそりとたたずんでいる。しかし、ここを訪れる人は鑑真の業績を確かめるように、一步一步門前の石段をのぼってゆく。

井上靖（一九〇七―一九九一）は、『闘牛』、『あすなろ物語』、『敦煌』などでも広く知られる。「天平の覺」の発表は昭和三年。翌昭和三年には、芸術選奨文部大臣賞を受賞している。

(奈良県立平城高等学校教諭 小島眞哉)



エンタシス様式の柱が配された唐招提寺の金堂

特集 **ポスト2000年の留学生政策**

巻頭言 8 大学の国際化と知的国際貢献——中嶋嶺雄

座談会 10 **ポスト二〇〇〇年の**

留学生政策

——出席者 猪口邦子／白石 隆／二宮 皓／周 航／司き林 和弘

論文 20 **グローバルゼーションと**

大学の「国際化」戦略

——喜多村和之

24 **UMAP単位互換スキーム**

(UCTS)の実験と学生交流の推進

——二宮 皓

エッセイ 28 **意志あるところに道はある**

——モハマド・タジユティン・ドン

30 **「日本に留学したいんですけど……」** 浅田和伸

事例紹介① 32 **「グローバル」な留学生受入れを目指して**

——早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

事例紹介② 34 **日米共同の短期留学プロジェクトについて**

——国立大学協会

事例紹介③ 36 **国際研究交流大学の建設について**

——学術国際局留学生課

解説 38 **我が国の留学生の受入れについて**

——学術国際局留学生課

資料 47 **留学生受入れの概況**

——学術国際局留学生課

1 記念館めぐり●ゆがの地を訪ねて

——シーボルト記念館（長崎県）

4 天然記念物歳時記

——仲間川天然保護区域

カラ—

表2 名作シリーズ

——シャボン玉を吹く少年と静物

表3 文化財紹介

——旧横浜船渠株式会社
第二号船渠（下）

6 私と教育、私として

——リサ・ステッグマイヤー

52 焦点—文教施策

61 刊行物紹介

62 中教審ニュース

66 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

——埼玉県浦和市、愛知県、
岡山県、宮崎県諸塚村

68 現代スポーツあれこれ

——トスポール

70 行ってみよう やってみよう

——国立江田島青年の家

72 海外教育ニュース

74 文学のふるさと

——紀ノ川

76 私の選んだ一冊

——植府暢子

77 インフォメーション

82 鑑賞席

84 編集後記

紀ノ川

有吉佐和子

「なあ、文緒」
「はい」

ガブッと音を立てて茶を飲み、懐から折り畳んだ手拭を出して唇を拭い、浩策は姪の顔より遠い彼方を見詰めながら、

「生命力というもん知ってるか」

と云った。

「言葉の意味やったら知ってます」

「生命力のあるもんは強い、ないもんは弱いちゅうことやな」

「はあ……」

「お前はんのお母さんは、それやな。云うてみれば紀ノ川や。悠々と流れよって、見かけは静かで優しゅうて、色も青うて美しい。やけど、水流に添う弱い川は全部自分に包含する氣や。そのかわり見込みのある強い川には、全体で流れこも氣魄がある。昔、紀ノ川は今の河口よりずっと北にある本ノ本あたりへ流れとったんやて。それが南へ流れる勢いのいい川があつて、紀ノ川はそこへ全力を注いで、流れそのものが方向を変えてしもうたんや」

含みの多そうな言葉だけに、文緒は叔父の言葉を安直に理解するのは控えたかった。肯きもせずまっ直ぐに浩策を見守っていると、彼は猶も云い継いだ。

「本家の御っさんは、わしを包含する氣やったよ。そのために、ウメまで抱きこもうとしよった。ほ、わしもウメもたいがい生命力の弱い川と見込まれたらし。

やけどな、紀ノ川の傍にも鳴滝川のように、添うと見せて仲々呑まれん細い川もあるんよ。わしらがそれや。文緒が訊いた仲の悪い理由ちゅうもんやろかい」

「叔父さん、そやったら私も鳴滝川やの。十八年育てられて、いっつもお母さんの思うよに育つてえしません」

「そやよって、わしと文緒は氣が合うんやろかいよ」

「そうでしょな。私もそう思いますわ」

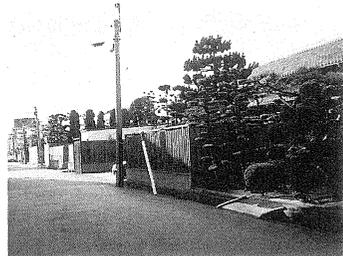
〔出典「紀ノ川」新潮社〕



有吉佐和子が通った県立和歌山高等女学校
(現在は和歌山県立桐蔭高等学校)



和歌山城



有吉佐和子の生まれた
和歌山真砂町付近の様子



紀ノ川の下流風景

紀ノ川は吉野川として大台ヶ原にその源を持つが、和歌山県に入ると、紀ノ川と呼ばれる全長一三六kmに及ぶ堂々たる河川である。

その紀ノ川の下流にある真谷家へ嫁ぎ、姑や夫に仕えて旧家を維持し、子どもを立派に育て、賢夫人と呼ばれた花。その花のことを紀ノ川のように強い生命力を持った女性だと花の夫の弟、浩策は述べている。花の生き方に反発し、当時としてはハイカラな自転車に乗って紀ノ川を渡って女学校に通い、やがて東京で結婚した娘の文緒。文緒は娘華子を生み、銀行員の夫とジャワ島に転動する。第二次世界大戦の勃発で東京に戻るが、文緒は華子を故郷の和歌山に疎開させる。華子は自分が祖母花に似た面を感じながらも、祖母の病気を献身的に看病して、心を通い合わせる。

明治、大正、昭和の激動の時代を紀ノ川を舞台にし、女三代にわたる人生を描いたのが、この作品『紀ノ川』である。汚いものもきれいなものもすべてを飲み込んで、滔々と静かに豊かに流れる美しい紀ノ川は、まさに女主人公たちそのものの姿なのである。作者有吉佐和子は、昭和六年に和歌山市に生まれた。和歌山を題材にした作品には、ほかに『日高川』、『有田川』、『華岡青洲の妻』などがある。『香華』、『出雲の阿国』、『和宮様御留』などの歴史小説や、『恍惚の人』、『複合汚染』など、時代を先取りした社会派小説も描ける鋭い感性の持ち主でもあった。昭和五九年、急性心不全のため、五三歳で死亡。

〔和歌山県立向陽高等学校教諭 小林政美〕